

第1章 - ラリーオビディエンス

Modified 5/25/2023_SCT1.1WCRL 登録、SCT3.4

ワールドサイノスポーツラリーは、人と犬が共に楽しめるスポーツ活動として、ラリーオビディエンスを推進しています。

このドッグスポーツの本質は、コース上に置かれたトレーニングエクササイズを、設けられた制限時間内にハンドラーと犬がコミュニケーションをとりながら楽しむ事にあります。様々なエクササイズ（課目）に取り組むことで、常に新鮮な気分でトレーニングすることが可能になり、それが犬とハンドラーとの関係をいい状態に保つことに繋がります。

ラリーオビディエンスでは、作業に対してポジティブな意識が求められるため、パフォーマンス中に犬を誉めることや、トリーツの使用を認める特別なルールが設けられています。

セクション 1.1-参加資格

規定により、月齢 6 ヶ月を越えた MIX ブリードを含む全ての犬の所有者は、WCRL 公認または WCRL イベントに参加することが出来る。各クラスの参加条件は、第 2 章のクラス構成に記載。

参加資格を得るには、競技者は WCRL の公式規則を遵守し、以下に同意しなければならない。

- 修了証、ナショナルランキング、順位、表彰を受ける為に、WCRL または USDAA にて犬の登録をしなければならない。登録は、WCRL サイト rallydogs.com < Caution-<http://rallydogs.com> > にて登録することが出来る。

(OPDES 会員は競技申込の際に申請用紙に必要事項を記入し、所定の登録料を添えてイベント事務所を通じて登録することも出来る)

- 発情犬は大会事務局の案内書に条件が明記されない限り、通常参加することはできない。
- ハンドラーとして全てのタイトリングクラスに参加できるのは、登録犬の所有者、その肉親、または配偶者、ライフパートナー、祖父母、あるいは孫であることが条件である。事務局によって特別に設けられたノンタイトリングクラス（スペシャリティクラス）の場合、この規制を設けないこともある。
- 痛みを伴わない身体障害であっても、出場に伴い痛みを生じる可能性のある犬の参加は認められない。
(年齢および年齢関連疾患は一般的に障害とはみなされない^{1.1)})
- 痛みの徴候を示す犬は棄権・失格とする。
- 医療処置の包帯、テープ、または縫合糸が付いている場合は参加できない。

さらに

- ジュニアハンドラー（1 月 1 日時に 16 歳に達していない）は、登録した犬と全てのクラスに参加できる。^{1.2)}
- セクション 1.2 の規定により、ハンデキャップのあるハンドラーでも WCRL イベントに参加することができる。
- 処分保留、または懲戒処分を受けているハンドラーまたは犬は参加することができない。

また、ハンドラーはイベント参加申込に伴い、その案内書に記載される基本契約、条件、懲戒処分の手続き、WCRL 規則等を理解、承諾し、従わなければならない。WCRL は必要に応じて、例外、解説、明確化、追加事項等を随時更新する。声明文、規定、大会の案内等は rallydogs.com にて入手することができる。

セクション 1.2- 変更依頼

ハンドラーまたは犬が抱えるハンディキャップにより、エクササイズを記述通りに実行することが不可能な場合、ハンドラーは事務局から変更申請書（RFM）を入手し、書面にてどのように、コースまたはエクササイズを変更して実行するかを提出しなければならない。書面は各クラスの開始前に審査員に提出しなければならない、変更内容は、出来るだけ本来の形に近いものでなければならない。

審査員は状況に応じて、ハンドラー、もしくはその犬が抱える身体障害でも実行可能なエクササイズ内容、またはコースレイアウトに変更しても良い。変更内容の申請を受理するか否かの最終決定は審査員が下す。

障害者または障害犬を含む全ての WCRL 参加者は、最新版のルールとガイドラインによって審査される。

ハンディキャップによる変更依頼は、審査に寛容さを求めるものであってはならない。

障害者、または障害犬のチームは動きが制限されるため、そのクラスのリミットタイムをそのチームの標準タイム^{1.3)}として適用する。

ただしリミットタイムを超えるタイムを標準タイムとして設定することはできない。

WCRL はこれらの規定を必要に応じて変更し、変更があった場合は rally.com オンラインにて公表する。

脚注：

- 1.1 高齢による傷害、病気または衰弱性疾患は、これに該当しない。
犬が痛みをうたえるものは身体障害とはみなされず、参加することは出来ない。
犬の健康と安全を最優先する。
- 1.2 ジュニアハンドラーによって登録された犬は、そのハンドラーと参加しなくてはならない。登録者が 16 歳に達した際に、登録犬は自動的にレギュラークラスに再登録される。
- 1.3 標準タイム（SCT）およびタイムペナルティーの起用は、2018 年 11 月 13 日をもって、無期限で延期となる。

第 2 章 - クラス構成

この章では各クラスについて解説する。クラスは下記の 3 つに分かれる。

- レギュラークラス
- 特別クラス（カスタマイズ-例：オーナー以外のハンドリング、ジュニアクラスなど。）
- トーナメントクラス（ナショナル・インターナショナル）

パフォーマンス（演技）の採点方法は、第 3 章から第 4 章に記載。各エクササイズ（課目）の実施要項は第 5 章から第 7 章に記載。

セクション 2.1 - レギュラークラス

レギュラークラスは、下記のレベルごとに難易度が増していく。

イントロ^{2.1)} - リード付き（ジャッジ 1 名可）

ヒーリング（脚側行進）、Sit（停座）、Stand（立止）、Down（伏臥）、Front（正面停座）、フィニッシュの基本動作を、コース全体を通してスムーズに行うことに重点を置いたクラス。オビディエンスの基礎訓練を習得したばかりの人達に、ラリースポーツの楽しさを知って貰うことを目的としている。イントロクラスではボーナス^{2.2)}を含む 10 個のエクササイズが使用される。

レベル 1 - リード付き

ハンドラーと犬の絆を構築することを目的とした基本動作を、チームとしてスムーズに行うことに重点を置いたクラス。ヒーリングにおける屈折、Sit、Stand、Down、Front、フィニッシュなどの基本動作の熟練度をはかるため、コースには適度な長さが設けられている。レベル 1 のコースでは、ボーナス^{2.2)}を含む 14～16 個のエクササイズが使用される。

レベル 2 - リードなし

ノーリードの状態、犬がハンドラーとの作業に対して自信をもって実行することに重点を置いたクラス。次のレベルに進むために必要な遠隔作業やコントロール能力をはかるため、コースには適度な長さが設けられている。レベル 2 のコースでは、ボーナス^{2.2)}を含む 16～18 個のエクササイズが使用される。

レベル 3 - リードなし

スタートからフィニッシュまで一連の動作の中で、チームとしてハンドラーと犬の意思の疎通がとれているかに重点を置いたクラス。このクラスでは犬の態度、反応、遠隔において犬がとるべき姿勢や、その位置を理解しているかなど、高度な熟練度をはかる為に様々なエクササイズが使用される。レベル 3 のコースでは、ボーナス^{2.2)}を含む 18～20 個のエクササイズが使用される。

ベテラン - リードなし

ベテランクラスはステーションナリーポジションを制限し、あらゆるレベルの高齢犬に適した、主に動くことに重点を置いたクラス。ベテランクラスはリード無しで行われる。コースは高齢犬でも行えるように設計される。ベテランのコースでは、ボーナス^{2.2)}を含む 11～13 個のエクササイズが使用される。ベテランでは Down を含むエクササイズは使用されない。

"A"クラス "B"クラス

レベル 1、2、3、ベテランクラスは、"A"クラスと "B"クラスに分割される。

"A"クラスはタイトル（レベル 1、レベル 2、レベル 3、ベテラン）を獲得していない犬のために設けられている。

B クラスはタイトル獲得済の犬が参加出来るクラス。

イントロには A,B の区分はない。

レギュラークラスへの参加資格

レギュラークラスへの参加条件は下記に記載。WRCL イベント参加資格については第 1 章のラリーオビディエンス参加資格を参照。

競技会でのタイトル獲得の概要については、第 8 章のタイトル、アワード（表彰）、ランキングに記載。

イントロ - 月齢 6 ヶ月以上の犬であれば参加することが出来る。イントロおよびレベル 1 以上のタイトルを保持する犬は、ウォームアップとしてイントロに参加することは出来るが、表彰の対象には該当しない。

レベル 1 - 月齢 6 ヶ月以上の MIX ブリードを含む全ての犬。

レベル 2 - 1 歳^{2,3)}以上の MIX ブリードを含む全ての犬。レベル 2 タイトルを得るにはレベル 1 タイトルを持っている事が条件。

レベル 3 - 1 歳^{2,3)}以上の MIX ブリードを含む全ての犬。レベル 3 タイトルを得るにはレベル 1、2 タイトルを持っていることが条件。

ベテラン- 下記に該当する, MIX ブリードを含む全ての犬。^{2,4)}

犬の重さ	ベテランクラス 適正年齢
41kgまたはそれ以上	6歳
23kg～41kg未満	7歳
23kg未満	8歳

クラスアワード（表彰）

どのクラスも通常行う表彰以外に、別のカテゴリーを追加して表彰することができる。（例えばジュニアハンドラー、パピー、最高齢犬など。）

もし事務局がイントロクラスでパピーに特化した表彰を行いたい場合、そのカテゴリーを追加し表彰を行っても良い。

パピークラスを設ける場合、月齢 12 ヶ月以下であることを推奨する。

セクション 2.2 – 特別クラス

特別クラスは、ノンストップコース、リレー、所有者以外のハンドリング等、レギュラークラスを変化させたノンタイトリングクラス。

運営する事務局は、WRCL にイベント開催日と運営するクラスの詳細を伝える際に、特別クラス開催許可を受け、イベント案内書にも表彰を含む詳細を記載しなければならない。これらの結果は、第 8 章-タイトル、アワード（表彰）、ランキングには含まれない。

セクション 2.3 - トーナメントクラス

WCRL が国内、または国際大会の開催を表明した場合、そのトーナメントルールは WCRL によって発行される。

各地（ローカルレベル）で行われる WCRL イベントを、その予選会とする場合もある。

トーナメントルールで行われてきたシリーズで、そのシリーズに参加した人達の中からベストハンドラーを決めることを目的としている。

脚注：

- 2.1 パピークラスはイントロに変更。イントロへの参加の年齢上限は無し。
- 2.2 ボーナスエクササイズは、第 3 章 - パフォーマンス・ルールのセクション 3.4 に記載されているもの。
コース設計の条件とガイドラインに準拠しており、通常はひとつ上のレベルで実施される課目から選択される。
2 サインは 2 として数える。
ベテランクラスではボーナスでも Down は使用しない。
- 2.3 ジャンプエクササイズが含まれるレベル 2、レベル 3 は、月齢 12 ヶ月以上でなければならない。
- 2.4 ベテランでは、そのクラスに該当するか否かを確認する為に、審査員または大会事務局によって体重測定が行われる場合もある。

第3章 - ルール

この章では、ラリーオビディエンスのコンセプト、一般的なコースとそのエクササイズパフォーマンス（演技）のルール解説をする。

パフォーマンスに対する採点は、クラスレベルとそのコースのシーケンスに応じた基準で行われる。

各エクササイズは第5章から第7章で定義される。

セクション 3.1 - 基本ルール

ハンドラーは、ブリーフィングや見分、競技の出場の際し、いつでも出られる準備をしていなければならない。（決定戦も含む）^{3.1)}

ハンドラーが複数のクラスにエントリーされている場合、

- 出場前に、各クラスの見分を済ませなければならない。
- 複数のクラスにエントリーし、出場順が重なるなどの影響が出る場合、ハンドラーは事前にゲートスチュワード、事務局、または審査員に知らせる義務がある。

会場内では、犬舎やケージからの出し入れ、または制約がない場所を除いては、常に犬にリードを装着しなければならない。

犬に装着がみとめられているものは：

- フラットバックル
- スナップカラー
- リミテッドスリップカラー（例えば マーチンゲール ハーフチョーク）
- 標準ハーネス（犬が引っ張っても締めないバッククリップハーネス）

ネームタグ付首輪の場合、タグが垂れ下がるものであってはならない。チョークチェーン、スリップカラー、スパイク首輪、ジエントルリード、ノーブルハーネス（犬が引っ張った時に引き締めになるハーネス）、首輪とリードが1本で繋がっているもの、メタルリード&首輪の使用は禁止。また電気首輪、スパイク首輪、およびチョークカラーは会場内での装着を認めない。



リング内で使用するリードの長さは6'（1.8m）を超えてはならない。リング内ではクリッカー、おもちゃ等、パフォーマンスを向上させるための補助道具の所持は認められない。但し、規定に明記されているものは除外。（例：セクション 3.4 に記載されている報酬・エクササイズ # 402 のレトリブの道具）WCRL ポリシーは、競技開催する上で随時改定することが出来る。

改正された声明は WCRL のウェブサイトに掲載され、WCRL 公認の大会事務局の要請に応じて閲覧可能とされなければならない。

セクション 3.2 - リングへの入場と退場

チーム（ハンドラーと犬）はリード付きの状態ではリング内へ入場する。リード付きで行うクラスを除き、ハンドラーはリングに入った後にリードをはずし、審査員またはリングスチュワードに渡すか、ブリーフィングで審査員が指定した場所に置く。チームはスタートサインまで進み、審査員の開始の指示を待つ。ヒールポジションで犬は立った状態、座った状態、または伏せた状態から競技を開始しても良い。審査員はコースパフォーマンスの前と後（スタートサインの前とフィニッシュサインの後）の動作にも減点を課すことができる。（第 4 章 - 採点を参照）フィニッシュラインを超えたら、リードを装着した状態でリングを退場しなければならない。

セクション 3.3 - コースパフォーマンス（演技）

ラリーオビディエンスは、ハンドラーと犬が、チームとして自然で、活力に満ち、ハンドラーの指示に対して犬は意欲的に作業することを前提としている。コースには、エクササイズを実行する為の適切なペースを確保するため、（セクション 3.4-標準タイム）標準タイムが設けられている。チームは、

- スタート地点へ進み、犬はハンドラーの左側につく。
- ノーマルペース（常歩）でスタートサインを越えた時点からパフォーマンス開始となる。
- コース上のステーションを番号順に進む。
- 審査員の指示なしで、各エクササイズを適切に実行する。
- フィニッシュサインを越えて終了する。

以下は基本ルールとして審査の対象となる。

- 犬はエクササイズの中で特別な要求がない限り、コース上では常にヒールポジションを維持しなければならない。フィニッシュラインを越えるまでのヒールポジションが、前が出る、遅れる、離れる、ぶつかる、ハンドラーが犬の歩度に合わせるなどは、すべて審査の対象となる。
- フィニッシュラインを越えるまで、犬がハンドラーの指示に対して極度に躊躇する、指示なしに動き出す態度も審査の対象となる。
- コース上は特別な指定がない限り、ノーマルペース（常歩）で行われる。
- ひとつのエクササイズを完了したら次のステーションへ進む。ステーションリーポジションでエクササイズを完了した時は、ご褒美（トリーツ・撫でる）を与えても良い。
- トリーツを与える行為や犬を触って誉める行為は、レギュレーションで許可された場面では全クラスで認められるが、その他のコースパフォーマンス中は認められない。
- ステーションリーポジションで次の動作へ、あるいは次のステーションへ移動するまでの間、犬はその場所でその姿勢を維持しなければならない。
- リード付きで行われるクラス（イントロ・レベル 1）では、リードは張ってはならない。リードを持つ手は、片手でも両手でも良い。また、途中で持ち手を変える事もできる。
- 各エクササイズは、サインから半径 1.2 メートル以内で実行されなければならない。（通常サインの前か、サインの左側で行われる場合が多い。）
- 各エクササイズは、特別規定で示されていない限り、リトライ（やりなおし）しても良い。
- ボーナスは成功した際に加点がつくオプションであり、チームはボーナスを実行してもしなくても、どちらでも良い。
- フィニッシュサインを越えた時点でタイムを止め終了となる。またはセクション 4.2 にある失格の場合も競技終了となる。

ルール、詳細については、セクション 3.4 を参照。

セクション 3.4 – コンセプト

ラリーオビディエンスには下記の様々なコンセプトが含まれる。

パフォーマンスと採点の基準は、これらに着目して行われる。

エクササイズが正しく実行されなかった場合の採点については第 4 章を参照。

アダプティングペース（歩度を合わせる）

ハンドラーの全ての歩度、方向変換に対し、犬が遅れる、前に出る、蛇行する、あるいはくっつきすぎて歩行の妨げになるなどの動作に対して、ハンドラーが犬の歩度に合わせて歩くスピードを変える、犬に近づく、または離れるといった行為を意味する。

犬はハンドラーと同調して動くように訓練されなければならない。

アンティシペーション（先読み）

ハンドラーが指示を出す前に、犬が先に命令を察知して姿勢を変えたり動き出す行為を意味する。

ボーナスエクササイズ（加点課目）

コース上に BONUS というプラカードがつけられた加点のつくエクササイズであり、全てのレギュラークラスで使用される。

ボーナスエクササイズはオプションなので、実行しなくても減点の対象にはならない。

- エクササイズが正しく実行された場合の加点を 10 点とし、そうでない場合はその出来映えに応じて採点される。
- ボーナスエクササイズの減点は、10 点を超えてはならない。
- ボーナスのリトライは 1 回。 リトライした場合の最大の加点は 7 点となる。（リトライにより 3 点の加点を失う）
リトライしたボーナスエクササイズが正しく実行されなかった場合の減点は、7 点を超えない。
- ボーナスエクササイズを実行した事で、あるいは実行しない事で進行方向が変わった場合、次のステーションへ進むためにハンドラーは必要に応じて追加の基本ターンを実行しなければならない。
- ボーナスをパスする場合、ハンドラーは犬をヒールポジションにキープした状態で次のステーションへ進む。
ボーナスをパスすることに対しての減点はない。

ボーナスエクササイズの実行方法

- レベル 1 は第 6 章に記載されている、遠隔、ジャンプエクササイズを除くレベル 2 エクササイズから選ばれる。(リード付)
- レベル2は第7章に記載されている300, 302, 308AB, 350,354, 358, 360, 362, 372AB, 374, and 376から選ばれる。
- レベル 3 は第 7 章に記載されているレベル 3 のボーナスエクササイズから選ばれる。
- イントロは第 5 章に記載されているレベル 1 のコーンエクササイズから選ばれる。
- ベテランは第 7 章に記載されている「Sit」 (「Sit」の使用上限を超えている場合)、「Moving Down」を除いたレベル 3 ボーナスエクササイズ、または 350, 364, 366AB, 376 から選ばれる。

キュー (命令・合図・指示など)

エクササイズを実行する上で、ハンドラーは犬にそのエクササイズに必要な動作を伝える手段として、声による、または手や体の動きによる命令・合図・指示を行う。これらは全てキューであり、それぞれを区別しない。

声による合図と手や体の動きによる合図が同時に与えられた場合は 1 つのキューとする。

追加のキューとは、ハンドラーの合図で犬が正しくエクササイズを実行出来なかった場合や、エクササイズの途中で犬が躊躇したり停止した場合に出される余分な合図を言う。また継続的な合図に対して、約 3 秒経過しても犬が正しくエクササイズを実行しない場合も、その合図は追加のキューとみなされる。追加のキュー毎にペナルティーが科せられるが、ベテランクラスでは、ひとつのエクササイズにつき 1 つの追加のキューまではペナルティーはない。

注釈： 「継続した合図」を使用する事は、ラリーオビディエンスでは問題ありません。「Front」の合図として「カム、カム、カム、カム」を言い続ける、また声と連動させてお腹に手をあて続けても、犬がハンドラーの側まで躊躇なく来ることが出来ていれば、犬がその合図を理解していると解釈できるので減点にはなりません。

犬がハンドラーの側に来る途中で躊躇したり完全に静止した場合、継続した合図が出されている状況下で止まった犬が自力で動きだしたとしても、その合図の理解が不十分だと解釈されるので、「エクササイズの途中で犬が躊躇したり停止した場合に余分に出される合図」 扱いとなり減点の対象となります。

コースマップ

コースマップには、ステーションごとのエクササイズが一連の流れの中で実行されるように表示されている。コースには順路にそって様々なエクササイズが揃えられている。コースはハンドラーの技術をはかる目的をかね、第 5 章から第 7 章に記載されているように、レベルに応じたエクササイズが使用される。そのため、異なるレベル、またはイベントごとに、異なったコースを使用しなければならない。

審査員は各クラスに適應したコースをガイドラインに沿って設計する責任がある。

エクササイズ (課目)

各エクササイズは第 5 章から第 7 章に記述されている通りに実行されなければならない。

エクササイズは大きくわけて二つに分類される

- ステーションアリーエクササイズ

ステーションアリーエクササイズは、停止した状態で終わる課目。またそのエクササイズの一部にムーヴィングエクササイズが含まれることもある。

- ムーヴィングエクササイズ

ムーヴィングエクササイズは、動きながら次のステーションへ進む。そのエクササイズに停止する動作が 1 つ、もしくはそれ以上含まれることもあるが、その場で停止した状態で終わらず次のステーションへと進む。

特定の内容により分類されたエクササイズ

- 犬から離れるエクササイズと、距離のあるエクササイズは、ハンドラーと犬が 1.5 m 以上離れて行われるエクササイズ。
- ジャンプエクササイズは、障害を使用するエクササイズ。
- コーン/ボウルエクササイズと、オブジェクトエクササイズは、コーン・食器・オブジェ等、犬の気をそらす物を使用するエクササイズ。

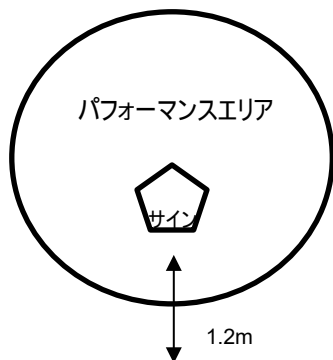
これらのエクササイズでは、犬はハンドラーの合図に意欲的に反応することが求められている。

(追加のキューや先読み、躊躇などをせずに実行する。)

各エクササイズの内容は第 5 章から第 7 章に下記の項目を含め記載される。

- 目的。
- 目的を満たすためのプライマリ-エレメント。(主要動作)
- セカンダリ-エレメント(副要素)及び、それを行う際の犬の態度。(第 4 章-採点に記載)
- エクササイズの要件を理解、解釈するための補助説明。

各エクササイズは、エクササイズサインのパフォーマンスエリア、つまりコースマップで定義されている方向に進んだ時、通常サインの正面または側面のほぼ 1.2m 以内で開始される。



Finish-Right (フィニッシュ右) と Left (フィニッシュ左)

Front で停止した後、ハンドラーの右側から、または左側からヒールポジションへ戻り座る。

- Finish Right、または Right Finish は、犬がハンドラーの右側から後ろを廻ってヒールポジションへ戻り座る動作。
- Finish Left、または Left Finish は、犬がハンドラーの左側*から直接ヒールポジションに戻り座る動作。
(*犬がハンドラーの左側からヒールポジションに戻る動きは、ハンドラーの後ろを廻ることなく、尚且つコンパクトであれば、あらゆる方法が許容される。)

フットプリント

ステーションリーポジションで、ハンドラー、または犬の体によって覆われている部分をいう。（留まっている場所）

Forward- Right（フォワード右）と Left（フォワード左）

Front で停止した後、ハンドラーの右側から、または左側からヒールポジションに戻り、そこから停止することなく前へ進む。

ハンドラーは犬がヒールポジションに戻ったら躊躇したり停まることなく前へ進む。

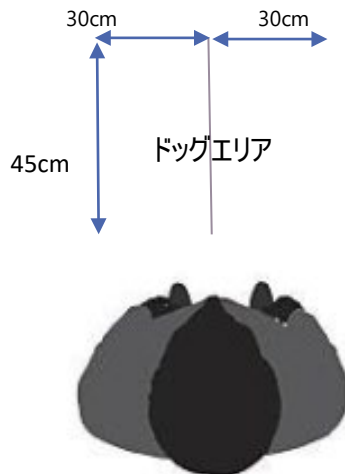
- Forward Right は、犬がハンドラーの右側から後ろを廻ってヒールポジションに戻り、座ることなく次のステーションへ移動する。
- Forward Left は、犬がハンドラーの左側から直接ヒールポジションに戻り、座ることなく次のステーションへ移動する。

Front（フロント）

ハンドラーの肩のラインに対して垂直に、犬はハンドラーの体の正面に位置する。

犬の頭の位置はハンドラーが伸ばした腕よりも離れていない状態、すなわち地面に平行にハンドラーが腕を前に伸ばした内側に位置する。

ハンドラーの正面から45センチ（18"）以内、左右30センチ（12"）以内(Dog Area)が目安となる。（犬の頭がハンドラーが腕を前に伸ばしたときに届く位置であるという意味）



犬の Front の位置として示されている Dog Area の外側で Front を行った場合、Front のアウトオブプレイス(第4章.セクション 4.3)の採点対象となる。

HALT（静止する）

ハンドラーは両足を揃えて停まる。犬はそれに反する特定のエクササイズ条件がない限り、ヒールポジションで躊躇することなく座る。

座るときは指示なし、指示あり、どちらでも良い。

ヒーリング（ハンドラーの横につく）

ヒーリングはステーション間の移動も含め、スタートからフィッシュまでのパフォーマンスの大半をしめる。犬はエクササイズの中で特別な指定がない限り、ヒールポジションを維持しなければならない。ヒールポジションから著しく外れた状態、（ハンドラーに）ぶつかる、遅れる、前に出る、左右に大きくズれるなどは採点の対象となる。

ヒールポジション

ヒールポジションは、ハンドラーが地面と平行に腕を左に伸ばしたところに犬の肩甲骨が位置する。

一般的に犬はハンドラーの左側 45 センチ（18"）以内に位置し、その肩甲骨の位置はハンドラーから前後 30 センチ以内（12"）。

ヒールポジションは、ヒーリング中、また、ハンドラーが停止した際に犬がヒールポジションにいることを求められている時にも適用される。

犬のヒールポジションの位置として示されている Dog Area の外側でステーションリーポジション(静止姿勢)になった場合、ヒールポジションのアウトオブプレイス(第 4 章.セクション 4.3)となり減点となる。



ハンドラーの右側でのヒーリング（第 7 章、セクション 7.5-レベル 3 ボーナスエクササイズ）の位置も、この図の反転状態と考える。

ユニゾン（同調する）

ハンドラーの動きや合図に対して、犬が同時に動く状態を意味する。ハンドラーと犬の動きが「同時に」と指定されているエクササイズでは、犬は持続的にハンドラーの合図（例えばヒーリングやフロントなど）に合わせて動かなければならない。

犬がハンドラーと同時に動かない、または、犬がハンドラーと同時に静止できない、これらは「ユニゾン」の動きに欠けるとされる。

ジャンプエクササイズ（障害飛越）

ジャンプエクササイズは服従訓練の一部として使用される。障害は犬に危険のないように設置されなければならない。

（安定した状態で設置されている事。軽量で高さ調節可能なバーを装備したもので、角がないものを使用する。）

障害のバーの長さは 1.2m-1.5m の物を使用する。ウイング付きハードルを使用する場合、ウイングの幅は 30cm を超えてはならない。

ジャンプエクササイズは、完全に飛び越える、バーに足が当たる、バーを落すなど、どの状態であっても支柱間を正しい方向から抜けた時点で完了とする。バーを落した場合はリトライ出来ない。^{3,2)}

支柱間をぬげずに障害の横を通り抜けた場合、ハンドラーは犬を呼び戻し再度障害に向かわせる。

ジャンプエクササイズのプライマリ-エレメントは、障害の「高さ」ではなく、その支柱間をハンドラーの指示によって犬が正しい方向から通過すること。^{3,2)}

障害の高さは 10cm、20cm、30cm、40cm に分類される。

バーの高さは犬の体高に応じる。

犬の体高	最低の高さ	推奨される高さ
30cmか、それ以下	10	10
40cmか、それ以下	10	20
50cmか、それ以下	20	30
50cm 以上	30	40

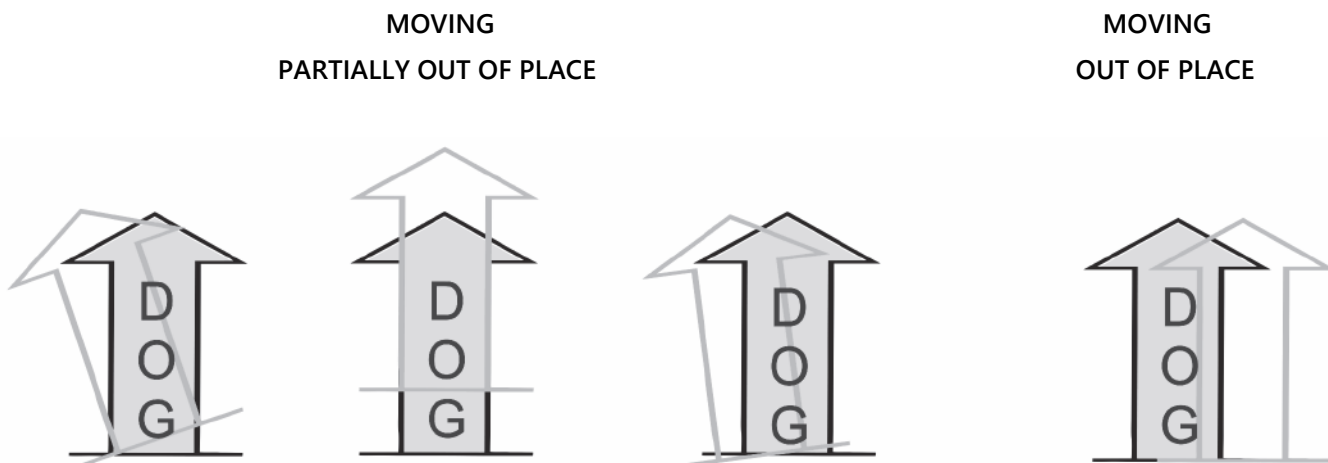
最低の高さは、変更依頼（Modification Request）無しで使用を許可された高さ。

ルアー（餌でつる行為）

ルアーとは、ハンドラーがトリーツを使用して特定の動きに導く、または持っているかのような動作でエクササイズを成功に導く誘導行為をいう。トリーツを持っていなくてもルアーの対象となる。

ムーヴィング、アウトオブプレイス（その場から動く）・ ムーヴィング、パーシャルリー、アウトオブプレイス（その場から少し動く）

「ムーヴィング-アウトオブプレイス」は、犬がそれまで留まっていた場所（以下「フットプリント」という）から犬の体の 50% 以上が動いた状態を意味する。また、フットプリントから体の一部（50% 未満）が動いた場合は、「ムーヴィング、パーシャルリー、アウトオブプレイス」となる。この 2 つの採点は、エクササイズでステーションリーポジションが指定された時と Stay が必要条件の時に適用される。



Pace- Normal,Slow,Fast (常歩、緩歩、速歩)

ペースサインには、エクササイズを実行するスピードを示す「Normal (常歩)」「Slow (緩歩)」「Fast (速歩)」がある。

Normal Pace は自然な歩幅と動き、自然な速さで目的地に到着する状態である。「Slow」「Fast」などの特別な指示がない限り、スタートからフィニッシュまで Normal Pace で行われる。

「Slow Pace」「Fast Pace」の速さは、ハンドラーの Normal Pace のスピードによって変わる。

- Slow Pace は、NormalPace の半分の速さ。ハンドラーが歩く速度を変える時は、2～3 歩内で移行しなければならない。犬はハンドラーの歩度に合わせる。
- Fast Pace は NormalPace の二倍の速さ。ハンドラーが歩く速度を変える時は、2～3 歩内で移行しなければならない。犬はハンドラーの歩度に合わせる。

通常、エクササイズは指定がない限り Normal Pace で実行される為、その他のペース変更後に Normal のペースサインを配置する必要はない。通常、エクササイズは Normal Pace での実行と規定されているので、その他のペースに変更後、Normal のペースサインがなくてもチームは次のステーションの 2～3 歩手前で Normal Pace に移行しなければならない。例えば、コース上に 1.「Fast」、2.「Slow」、3 「360°Left Turn」というシーケンスがあった場合、チームはまず Fast Pace を実行し、「Slow」のステーションの 2～3 歩手前から Slow Pace に移行し、「360°Left Turn」のステーションの 2～3 歩手前で Normal Pace に戻して 360°左ターンを実行する。

Fast Pace、または Slow Pace サインはジョイント（接合）する事が出来る。つまり、ひとつのステーション、もしくはシェアステーションにくっつけて、次のステーションへ進むペースを示す。

審査員の裁量で、Fast Pace、または Slow Pace サインは、基本的にどのエクササイズにもジョイントする事が出来る。ただし、例外として、エクササイズの最後が Down の場合、及び、イントロ、レベル 1、レベルベテランでのステーションナリーエクササイズにはジョイント出来ない。

例) # 156Moving Sidestep Right と Fast Pace がジョイントされている場合、Moving Sidestep Right を完了してから 2～3 歩で FastPace に移行し、次のステーションの 2～3 歩手前で Normal Pace に戻す。

Pivot (その場で回転)

ハンドラーは立ち位置を変えることなく、その場で回転する。Pivot はハンドラーが前後左右に動いてはならない。(フットプリント参照)

プライマリー &セカンダリー-エレメント (主要素と副要素)

エクササイズのプライマリー-エレメント (主要素) とは、エクササイズの目的となる要素であり、各エクササイズの説明の中で指定されている。プライマリー-エレメントの実行の失敗、または誤った実行は、大きなペナルティーをもたらす。

セカンダリー-エレメント (副要素) とは、エクササイズの説明の中に含まれた、そのエクササイズを達成する為の関連動作 (すなわち実施要領) である。セカンダリー-エレメントの減点については、第 4 章-セクション 4.3 – エクササイズの減点を参照。

半径

円の中心からその周囲までの長さ。チームが旋回（180°,270°,360°）する時の規準となる円の大きさの半径（60～90cm）は、中心からその周囲（ハンドラーと犬の間の点）までの距離を下記のように測る



Recall（呼び戻し）

ハンドラーの指示により、犬はハンドラーの体の正面に来る。

リトライ

ハンドラーは次のステーションへ進む前であれば、そのエクササイズをリトライしても良い。ジャンプエクササイズの場合、支柱間を正しい方向へ通過せず、バーが落下していない場合はリトライの対象となる。（横をすり抜けた、違う方向から飛んだ、など。）エクササイズをリトライするとその前についた減点は削除され、代わりにリトライ減点が**リトライ毎**につく。（第4章セクション4.4-特別採点法参照）

エクササイズのリトライをする場合、チームは数歩コースを戻り、そこからそのエクササイズサインにアプローチし、エクササイズ全体を実行しなければならない。

シェアステーションのリトライを行うには、チームは数歩コースを戻り、そこからシェアステーションの最初のサインに再度アプローチしなおし、シェアステーション全体を実行しなければならない。（この場合、リトライの減点は3点のみ）

また、ハンドラーは失敗をしたエクササイズだけを数歩手前からリトライする事も出来る。

ハンドラーが上記のように明確な歩数をもってエクササイズやシェアステーションにアプローチしなかった場合、追加のキューとしての減点がつき、リトライ前の減点も削除されない。各エクササイズ、または各シェアステーションのリトライは2回まで。

ご褒美・報酬

報酬を与える主な目的は、犬の意欲を強化することにある。食べ物（例えば「トリーツ」）を使用すること、犬を撫でる行為は、報酬として認められる。

ご褒美を与えるルール

- レベル 1,2,3,ベテランクラスのステーションリーエクササイズが完結した時。ただしシェアステーションを除く。
シェアステーションでは、最後に実行するエクササイズがステーションリーポジションで終わる場合のみ。^{3.3)}
- イントロクラスは、ステーションリーポジション毎にご褒美を与えてもよい。ただし 1 エクササイズに対して 2 回まで。
シェアステーションのご褒美はシェア動作に対して与えることは出来ない。与えてしまった場合は実質的な減点が発生する。
(第 4 章セクション 4.2 参照)
- 次のステーションへ進む前に与える。
- 犬を誘いこむために使うことは禁止。(ルアー行為)
- スタートする前、またフィニッシュラインを超えた後。
- ご褒美を与える(もしくは犬に触れてほめる) ことに時間をかけすぎてはならない。

上記ルールが正しく実行されなかった場合、「不適切な褒美」としてペナルティの対象となる。(第 4 章参照)

トリーツをご褒美として使う場合の追加ルール

- トリーツはポケット内にしまわれていなければならない。手にもつ、口に含むことは禁止。
- おやつポーチは使用禁止。

シェアステーション

ひとつのステーションに、複数のエクササイズサインが置かれているものを、シェアステーションという。

シェアステーションの特徴は、一般的なステーションリーエクササイズ (Sit, Stand, Down, Front) が組合わさり、シェアステーションの最初に行われるエクササイズの完結姿勢と、それに続く次のエクササイズの最初の姿勢が同じ形になる。

例えばエクササイズ # 104 (HALT, Sit, Down) と # 308 (Moving Down, Leave Dog) のシェアステーションでは、Down が共有する姿勢となる (ご褒美を与えるルールを参照)。共有する姿勢がシェアエレメントとなる。

204 (47) HALT, Sidestep Right, HALT と # 206A-B の HALT, Leave Dog, Call to Heel, Sit では、# 204 の最後の HALT と # 206A-B の最初の HALT がシェア動作となる。

シェアステーションのリトライを行うには、チームは数歩コースを戻り、そこからシェアステーションの最初のサインに再度アプローチし、シェアステーション全体を実行しなければならない。(この場合、リトライの減点は 3 点のみ。)

また、ハンドラーは失敗をしたエクササイズだけを数歩手前からリトライする事も出来る。

ハンドラーが上記のように明確な歩数をもってエクササイズやシェアステーションにアプローチしなかった場合、追加のキューとしての減点がつき、リトライ前の減点も削除されない。各シェアステーション、または各エクササイズのリトライは 2 回まで。

ハンドラーは、シェアステーションを別々のエクササイズとして、分けて実行しても良い。シェアステーションのエクササイズを分割して実行する場合、ハンドラーはひとつ目のエクササイズを完結したのち、次のエクササイズを実行するためのチームの姿勢をリセットするため、コースのレイアウトにそって数歩進まなければならない。

別々のエクササイズとして実行した場合、リトライも別々のエクササイズとして実行する (この章のリトライを参照)。

別々のエクササイズとして実行した場合、ハンドラーは各ステーションリーエクササイズの最後にご褒美を与えても良い。

別々のエクササイズとして実行された場合、シェアステーションとしてのリトライは出来ない。

リトライのために位置を直す場合を除き、シェアステーション実行中にハンドラーが立ち位置を調整する行為は、追加のキューとみなし減点の対象となる。

使用して良しとされるシエアステーションは、レベルに応じて変わる。

クラス	最大使用回数	シエアステーションで 使用出来るエクササイズ数	別々にエクササイズを 実行しても良いか
イントロ	1	2	Yes
レベル1	2	2	Yes
レベル2	3	3	Yes
レベル3	3	3	Yes
ベテラン	2	3	Yes

ペースチェンジのサインがシエアステーションの最後のエクササイズサインと組み合わさっている場合（Joint）、このペースサインは1ステーションで使用可能な最大エクササイズ数にはカウントされない。

極度の躊躇

ハンドラーの指示に対して犬が反応するまで、4～5秒の間があった場合は「極度の躊躇」とみなす。

ステーション

エクササイズサインが置かれている場所を「ステーション」という。

ステイ-イン-プレイス（その場に留まる）、ステイ-イン-ポジション（その姿勢を維持する）

「ステイ」は、犬のフットプリントや姿勢が変化しない状態を意味する。エクササイズの記述では、ステイインプレイス（その場に留まる）と、ステイインポジション（姿勢を維持する）が別々に区別される。この二つは採点に影響するため、区別して表現されることが重要である。どちらか、または二つとも、エクササイズの主要動作およびその関連動作の記述に使われることがある。

ステイインプレイスは、犬のフットプリント（地面との接地面）上で留まることを意味する。

（フットプリント、ムーヴィングアウトオブプレイス、ムーヴィングパーシャリーアウトオブプレイスを参照）

ステイインポジションは犬の姿勢（例：座る、立つ、または伏せる）を維持することを意味する。Sitで待機しなければならない場面からDown、またはDownで待機しなければならない場面でSitなど、その体勢を変えてしまうと「アウトオブポジション（姿勢を変えた）」となる。（ステイインポジションはハンドラーとの関係性で生じるヒールポジションと混同されてはならない。ヒールポジションを参照）

リードを張る

リードが張るという状態は、犬の首輪にテンションがかかっているという証拠である。リードを張ることで犬の動作に影響を与えた場合、追加のキューとして減点の対象となる。例えば、ハンドラーが Fast Pace に移る際にリードを張り、犬がそこで歩度を変えた場合、リードを張ったことが犬にとっての合図になったということで減点される。

標準タイム(SCT)^{3,4)}とリミットタイム(MCT)

標準タイムは、コースに設置されたエクササイズを実行する上での適切なペースを確保するために設けられている。

スコアにはスタートからフィニッシュまでのタイム減点も反映される。

タイムはチームがスタートサインを超えた時点から計りだし、フィニッシュサインで止める。タイムは 1/100 秒単位で計る事が出来る電子タイマー、またはストップウォッチを使用する。

各コースにはリミットタイムが設けられている。リミットタイムを越えた場合は 0 点となる。

レベル 1、2、3 の B クラスには、ハンドラーと犬が自然かつ、活気に満ちた状態で作業するために必要とする時間として、標準タイムが設けられており、標準タイムはリミットタイムよりも 20 秒少ない。A クラスおよびベテラン B クラス、およびイントロクラスに標準タイムはない。SCT^{3,4)}を超えた場合、タイムペナルティ^{3,4)}が科される(11 月 13 日__無期限で導入延期) (第 4 章、セクション 4.2 – コースペナルティ参照)

各クラスの標準タイム、リミットタイムは以下の通り

クラス	リミットタイム	標準タイム	
		Aクラス	Bクラス
イントロ	3分 (180秒)	設定なし	
レベル1	3分 (180秒)	設定なし	2分40秒 (160秒)
レベル2	3分30秒 (210秒)	設定なし	3分10秒 (190秒)
レベル3	4分 (240秒)	設定なし	3分40秒 (220秒)
ベテラン	4分 (240秒)	設定なし	

標準タイムはエクササイズを進めるスピードを計るものではない。審査員がガイドラインに沿って設計したコース上のエクササイズを進めていく上で、おおよそ必要とされる時間である。

主催者

WCRL の許可を得て、規定に従い競技を開催する個人または団体。

会場

競技会場は主催者によって管理される。会場とはリング以外のクレートエリア、ウォームアップエリア、駐車場、またその他ハンドラーによって使用される場所も含む。

主催者には会場選択の責任があり、その会場がある地区町村の法律に準拠していることを証明する。

見分（けんぶん）

審査員のフリーフィリング後、7分から最大10分間のコース見分時間が設けられる。

コースは審査員によって貼られたコースマップ通り、番号順に課目が設置されている。

見分ルールとしては

- 全クラス、競技開始前に行われる。ただし、止むを得ない状況で見分時間に間に合わないハンドラーについては、審査員の判断で追加の見分時間を設けることがある。
- 20組以上のエントリーがあった場合は、20組ごとに分けて見分を行わなければならない。
- 1回以上の見分時間が設けられる場合、出場順が最初のチームのハンドラーは1回目の見分に入らなければならない。

見分はその競技に出場するハンドラーしか入ってはならない。ただし

- ジュニアハンドラーには親がつくことができる。
- 審査員が必要と許可した場合、障害者ハンドラーにはヘルパーがつくことができる。
- 競技要員は安全確認のため、いつでもリンク内に入ることができる。
- 時間、またはエントリー数に余裕がある場合、大会事務局の判断で競技に出場しない人の見分を許可することがある。^{3.5)}許可を受けた人は見分することが出来るが、競技に出場するハンドラーの見分を妨げてはならない。

脚注：

- 3.1 そのクラスにタイム、スコアともに同点の犬がいた場合、決定戦を行う。
決定戦は最初の6ステーション、または最後の6ステーションを用いておこなう。
但しトライアルホストの裁量で、決定戦をしなくても良い。
- 3.2 ジャンプエクササイズを行う前にバーが落下したり、またはコース上で同じ障害が2回使用され、最初のジャンプエクササイズの実行で落下した場合、バーをリセットしてもよい。
- 3.3 シェアステーションでは最後に実行するエクササイズがステーションリーポジションで終わる場合にご褒美を与える。（例A）
もしシェアステーションの最後がムーヴィングエクササイズの場合、ムーヴィングエクササイズに入る前にステーションリーポジションで、その前のエクササイズが終了するときにも与えてもよい。（例B）
- 例A) #116 (Call Front, Finish Right), #200 (HALT, 180°Right Pivot, HALT), and #204 (HALT, Sidestep Right, HALT)
204の終わりのHALTでご褒美を与える。
- 例B) #116 (Call Front, Finish Right), #200 (HALT, 180°Right Pivot, HALT), and #216 A (HALT, Leave Dog)では、
216でハンドラーは犬から離れるので、その前の#200の終わりのHALTの状態になった時にご褒美を与えてもよい。
- 3.4 標準タイム(SCT)およびタイムペナルティーは2019年1月1日から有効となるようになっていたが、11月13日の改定書により、無期限での導入延期が決定。これにより、標準タイムを評価するための追加データを収集する時間を得る。
- 3.5 参加者以外にコース見分の機会を設けることは、そのスポーツを理解し興味をもって貰うことに繋がる。
その日の時間制約がある場合は、参加者以外の見分は制限する。
また参加者以外の見分許可は、審査員との協議を行う大会事務局が下す。
参加者以外の見分許可は、低いレベルより高いレベルのクラスを優先してはならない。

第4章 – 採点

得点はエクササイズの評価のみならず、スタートからフィニッシュまでのコース全体のパフォーマンスに重点を置き、訓練の質、出来映えをはかる手段として設けられている。得点の構成要素は下記の3つからなる

- 持ち点（200点）と、ボーナスによる加点。
- 基礎減点は標準タイムからの減点と、コース上でのパフォーマンス全般に適用される。
- エクササイズ減点。

最大点数（200点）から減点されたポイントを差し引いた点数が、そのチームの獲得スコアとなる。

点数の高い「ベストタイム」チームがそのクラスの勝者となる。

セクション 4.1 - 持ち点（Course Value）

スタート時の各チームの持ち点は200点満点であり、ボーナス加点を足すと最大210点獲得することが可能。

170点以上を獲得したチームには「合格」が与えられる。170点に満たない場合はNQ（不合格）となり、そのクラスの「合格」もつかない。

4.1)

失格も不合格となる。

セクション 4.2 - 基礎減点

基礎減点は、タイム減点、失格、スタートからフィニッシュまでのパフォーマンス全般に対する減点。

タイム減点（11月13日の改定書により、無期限での導入延期が決定）^{4.2)}

第3章に記述されたレベル1,2,3のBクラスには標準タイム(SCT)^{4.2)}が設けられている。

タイム減点は1秒ごとに1点ずつ減点される。（例：SCT標準タイムより1.38秒オーバーした場合、2点の減点。）

基礎減点

1点減点（1回毎）

- 吠える（1回毎に1点減点だが連続して吠える場合は審査員の裁量により減点数が決まる。）
- ヒーリングの失敗-（ハンドラーに）ぶつかる、遅れる、前に出る、左右に大きくズれるなど。
- ハンドラーにとびつく。
- リードを張る。

2点減点（1回毎）

- ハンドラーが犬のペースに合わせる。（アダプティングペース）
- 追加のキュー。^{4.3)}
- サインを動かす、倒す、またはハンドラーと犬がサインやコーンで離れてしまう。^{4.4)}
- レベル1、イントロクラスでリードを落す。
- ハンドラーが（褒美として）トリーツをあげている時にトリーツを地面に落す。
- ハンドラーがサインより離れてエクササイズを実行する。（半径1.2mを超える）
- ~~コースパフォーマンスの前と後のルアー行為~~
- 座る場面で伏せるなど、規定の記述にない姿勢をとる。

3点減点（1回毎）

- 一時的にコントロール不能になる。^{4.5)}

5点減点（1回毎）

- シェアステーションのシェアエレメントに対してご褒美を与える。
（イントロクラスのみ-5点、通常のクラスではNQになる行為。）
但しシェアステーションのエクササイズを別々に実行する場合を除く。

失格—0点

- リミットタイム MCT*を超える。
- ハンドラー自身の棄権の申し出を審査員が承認した場合。
- ヒーリングが成立していない。**
- 不適切、または理解不能な犬の行為。
 - 人、犬、物に損害を与えかねない。
 - 体調不良を示す。
 - 排便・排尿。
 - 制御不能（一時的なものを除く）、呼び戻しが利かず時間が経過した場合、ハンドラーは直ちに犬を捕まえなければならない。
- コースパフォーマンス中のルアーリングや犬への不適切な褒美。またはおもちゃを与える。**
- コースから外れる。**
 - エクササイズをとばす。（ボーナスを除く）
 - エクササイズの構成に必要なシーケンス（順路）をとばす。
- スポーツマンシップの欠如。***
 - 犬に体罰をあたえる。（声を荒げる、または口頭で圧力をかける。）
 - 敷地内での破壊行為。
 - リードによる強制。
 - 審査員、大会事務局に対する無作法な行為。
- 課目を実行する際に犬に触れる。
- セクション 3.1 に記載された首輪や訓練補助道具を使用。

*競技要員により失格がつけられる。タイム要員はリミットを越えた場合、審査員に合図をおくっても良い。

**審査員により失格がつけられる。

***リング外への退場勧告。

セクション 4.3 - エクササイズの減点

第5章—7課目の記述とおりにエクササイズが実行されなかった場合、審査員はそのエクササイズに対しての減点を行う。
減点はそのエクササイズの質の向上を示すものである。各エクササイズについては最大10点までペナルティーを科せられる。

プライマリエレメントの減点 - エクササイズのプライマリエレメントを規定通りに実行出来なかった場合、エクササイズの失敗を意味し、以下のペナルティーが科せられる。失敗したエクササイズはリトライ（やりなおし）^{4.6)}することが出来る。

5点減点（1回毎）

- プライマリエレメントの失敗

セカンダリーエレメントの減点 - (セカンダリーエレメントとは、エクササイズの説明の中に含まれた、そのエクササイズを達成するための関連動作を示す。) エクササイズのプライマリエレメント以外を規定通りに実行出来なかった場合、以下のペナルティーが科せられる。プライマリエレメントの出来映えについても評価される。エクササイズ全体のリトライ(やりなおし)は認められている。

1点減点(1回毎)

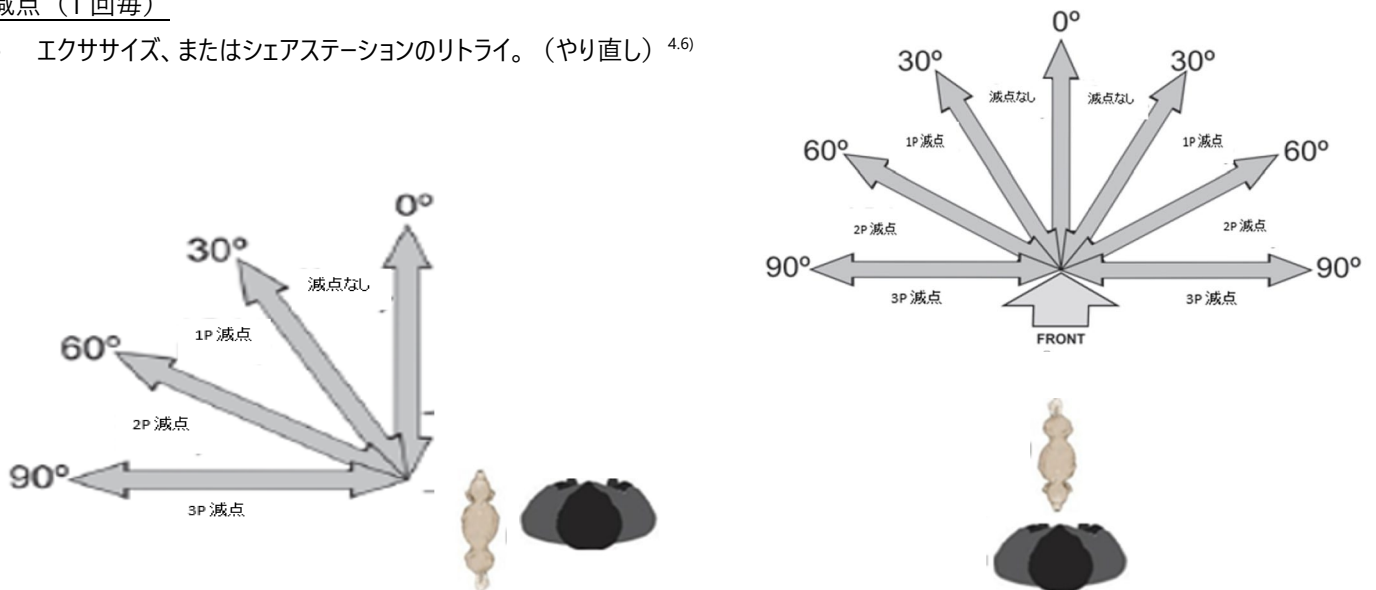
- Sit、Stand、Down、または Front の向きが斜め。(30°毎に1点減点)
- ハンドラーの動きに同調していない。
- ステーショナリーポジションになった時にヒールポジション、またはフロントポジションの Dog Area から外れている。ステーションナリーポジションになった後に少し動く。
- 極度の躊躇、または先読みによるフライング行動。

2点減点(1回毎)

- 犬、またはハンドラーが、セカンダリーエレメントを記述通りに実行しなかった。
- ステーショナリーポジションになった後の、50%以上のズレ。

3点減点(1回毎)

- エクササイズ、またはシェアステーションのリトライ。(やり直し)^{4,6)}



セクション 4.4—採点の特別考慮

一般的に状況が具体的に規定で言及されていない部分については、審査員の判断によって減点される点数が決められる。審査員はコース上のパフォーマンス全体の出来映えを考慮する。

Double Jeopardy 重複失敗の採点

1つの動作や振る舞いに対して、2つ、あるいはそれ以上の減点がつくという状況であった場合、それぞれの減点を加算するのではなく、そのうちのいずれかを適用する。

例をあげると：

- ヒーリングにおいてハンドラーが追加のキューを与え、更に犬に歩度を合わせた場合、1つのペナルティを科す。
(AC-2、AP-2ではなく全体の出来映えに対して減点)
- エクササイズ # 100 (HALT,Sit) において Halt した位置と Sit した位置がいずれも斜めだった場合、1つのペナルティを科す。
(Halt の OOP-1、Sit の OOP-1 ではなく全体の出来映えに対しての減点)
- エクササイズ # 104 (HALT,Sit,Down) において、Sit の位置が斜め、そして斜めの位置で Down した場合、Sit の位置が Down の位置に影響しているため、最初の Sit に対してのみ減点 (1点) を行う。

シェアステーションについては、シェアする動作についての減点は1回のみとする。ただしハンドラーがシェアステーションを分けて行う場合はこの対象にならない。

Penalties Not Erase with a Retry リトライ (やりなおし) で消えない減点

通常、エクササイズをリトライする場合、3点の減点がつき、リトライ前についた減点は一旦消去されるが、下記の行為・行動についた減点はリトライしても消えない。

- 吠える、ハンドラーに飛びつく、一時的に注意力散漫、コントロール不能になる。
- サインの逆側で、あるいは犬とハンドラーがサインを挟んでエクササイズを実行、リードを落す、ご褒美のトリーツを落とす、サインから 1.2m 以上間隔をあけてのエクササイズの実行。
- 失格。
- 外部の (人の) 補助行為。

Outside Assistance 外部の (人の) 補助行為

外部の補助行為とは、リング外の人が競技者のパフォーマンスに影響を与えること。審査員はその補助行為が競技者のパフォーマンスにどの程度の影響を与えたか、採点の対象となる場面であるなしに関わらず判断する。(例：補助行為によって減点を免れる) エクササイズのプライマリエレメントが実行されなかった場合は、外部の補助がなかったとしても減点は付く。

例をあげると：

- ハンドラーがエクササイズ 114 (Halt, Sit, Down, Walk Around) において、Down をやり忘れ、そのことに気づかず次のステーションへ向かう際に観客がそのエラーを指摘。もしハンドラーがやり直しを決行した場合、審査員はハンドラーのやり直しがハンドラー自身によるものか、外部からの指摘によるものかを判断しなければならない。通常のリトライであれば3点減点、外部の補助がなければ、リトライをせず次のエクササイズに進んだと判断した場合は、エクササイズのプライマリエレメントが正しく実行されなかったとして減点が5点になる。
- ハンドラーがコースを見失い立ち止まった時に、外部の人達が次のエクササイズを教える。審査員はハンドラーがそれらの補助によって再開したか否かを判断する。補助が影響したと判断した場合は失格となる。

脚注：

- 4.1 170点以下の得点は記録として残す。但し失格の対象になるケースはそのスコアが0点となる。
- 4.2 標準タイム(SCT)およびタイムペナルティーは2019年1月1日から有効となる。
- 4.3 ベテランクラスでは、1つのエクササイズにつき1回までの追加のキューにペナルティーはつかない。
- 4.4 ハンドラーと犬がサインやコーンを跨いで通過してしまった場合、分裂(splitting)となる。
- 4.5 部分的に注意力散漫、あるいはコントロール不能になった場合、ハンドラーはすぐに犬を掌握しなければならない。
例：激しく吠える、激しくハンドラーに飛びつく、コースから離れる、リング枠を壊す。
指符または声符によって犬が極度に躊躇することなく再開することが出来れば、部分的な注意力散漫、コントロール不能として3点減点となる。
- 4.6 エクササイズ、またはシエアステーションをリトライした場合、リトライ前についた減点は一旦削除され、リトライに対して3点減点がつく。

第 5 章-レベル 1 エクササイズ

レベル 1 で使用するエクササイズ。

レベル 1 コースにはこのセクションに記載されるものと、レベル 2 エクササイズの中から起用されるボーナスが含まれる。

コース設計は別紙 A のガイドラインに順ずる。

この章では各エクササイズに要求される内容が下記のように記載されている

- 目的
- 目的を満たすプライマリーエレメント(主要素)
- 第 4 章の採点に基づき、どのようにパフォーマンスが実行されなければならないかの記載。(セカンダリーエレメント)
- 補足説明

セクション 5.1-ステーションナリーエクササイズ

ステーションナリーエクササイズはステーションナリーポジションで完結する課目である。

そのエクササイズの一部に、ムービング要素が含まれる場合もある。

100(1)- HALT、SIT

停止でお座り

プライマリーエレメント: 「Sit」

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬は同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
- 犬はヒールポジションで「Sit」する



102(2REVISED)- HALT、SIT、STAND

その場の「STAND」

プライマリーエレメント: 「SIT」からの「STAND」

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬は同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
- 犬はヒールポジションで「Sit」する
- ハンドラーは犬に「Stand」の合図を出す
- 犬は手をそえるなどの補助無しで、犬はその場で「Stand」の姿勢をとらなければならない
- ハンドラーと犬は、犬が「Stand」姿勢から次のステーションへ向かう



104(3) - HALT、SIT、DOWN

その場の「DOWN」

プライマリーエレメント: 「Sit」から「DOWN」

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬は同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
- 犬はヒールポジションで「Sit」する
- ハンドラーは犬に「Down」の合図を出す
- 犬はその場で「Down」の姿勢をとらなければならない
- ハンドラーと犬は、犬が「Down」姿勢から次のステーションへ向かう



106(5) - HALT, SIT, WALK AROUND

ハンドラーが動いている間、「SIT」の姿勢で待つ

プライマリーエレメント: 「SIT」の姿勢で待つ

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬が同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
- 犬はヒールポジションで「Sit」する
- ハンドラーは犬に「Stay」の合図を出し、犬の周りを反時計回りに一周してヒールポジションへ戻る
- 犬はその場を動くことなく、「Sit」の姿勢で待機しなければならない



108(28) - HALT, TURN RIGHT, 1 STEP, HALT

小さく動くハンドラーの動きに同調する

プライマリーエレメント: 右に向きを変えて一歩動くハンドラーに同調して Heel 開始

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬は同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
- 犬はヒールポジションで「Sit」する
- 犬にヒールの合図を出し、右に 90° 向きをかえて 1 歩前進して止まる
- 犬はハンドラーが向きをかえる動きに同調して動く
- ハンドラーは止まると同時に犬に「Sit」の合図を出す
- 犬はヒールポジションで「Sit」する



補足

- ハンドラーが向きを変えた際に犬が同調して動かなかった場合、このエクササイズプライマリーエレメントは満たされなかったと見なす

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬は同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
- 犬はヒールポジションで「Sit」する
- 犬に「Heel」の合図を出し、位置を移動せずにその場で 90° 右回転する
- 90° 右回転したらハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
- 犬はヒールポジションで「Sit」する

補足

- ハンドラーが向きを変えた際に犬が同調して動かなかった場合、このエクササイズのパライマリーエレメントは満たされなかったと見なす
- ハンドラーはその場を動かさずに向きを変えなければならないが、犬にはその必要はない

112(4)-HALT, SIT, DOWN, SIT

その場で SIT, DOWN の動きをする

プライマリーエレメント: 「DOWN」からの「Sit」

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬は同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
- 犬はヒールポジションで「Sit」する
- ハンドラーはヒールポジションで犬に「Down」の合図を出す
- 犬はその場で「Down」の姿勢をとらなければならない
- ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
- 犬はその場で「Sit」の姿勢をとらなければならない



114(6)-HALT, SIT, DOWN, WALK AROUND

ハンドラーが動いている間、DOWN の姿勢で待つ

プライマリーエレメント: 「DOWN」の姿勢で待つ

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬は同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
- 犬はヒールポジションで「Sit」する
- ハンドラーは犬に「Down」の合図を出す
- 犬はその場で「Down」の姿勢をとらなければならない
- ハンドラーは「Stay」の合図を出し、犬の周りを反時計回りに一周してヒールポジションへ戻る
- 犬はハンドラーが戻るまで「Down」の姿勢で待機しなければならない



116(17)- CALL FRONT, FINISH RIGHT

正面停座

プライマリーエレメント: ハンドラーの正面で座る

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーは前進をやめると同時に犬に「Front Sit」の合図を出す
- 犬はハンドラーのフロントで「Sit」する
- ハンドラーは「Finish Right」の合図を出す
- 犬はハンドラーの右側から後ろを廻ってヒールポジションへ戻り「Sit」する

補足

- ハンドラーは犬をフロント(正面)に導くため 4 歩まで後退しても良い、しかし義務ではない。
- ハンドラーは自分から犬の体の正面に近づくような動きをしてはならない。



118(180)- CALL FRONT, FINISH LEFT

正面停座

プライマリーエレメント: ハンドラーのフロントで「Sit」する

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーが前進をやめると同時に犬に「Front Sit」の合図を出す
- 犬はハンドラーのフロントで「Sit」する
- ハンドラーは「Finish Left」の合図を出す
- 犬はハンドラーの左側からヒールポジションへ戻り「Sit」する



セクション 5.2 - ムービングエクササイズ

ムービングエクササイズは、動く要素で完結する。その中には 1 つ、もしくはそれ以上のステーションリー要素を含む場合もあるが、ステーションリーポジションで完結することはない。

これらのエクササイズの多くは、ペース変更などの基本的な指示であり、全てのレベルでコース上の動きの基盤になる。

150(21) - NORMAL PACE

常歩で脚側行進の基礎を示す

プライマリーエレメント: ノーマルペース

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬は同調して自然な歩行を継続して行う
- ハンドラーは犬の歩度にあわせてはならない
- 犬はハンドラーにぶつかる、前に出る、遅れる、蛇行することなく、ヒールポジションを維持する



152(19) - SLOW PACE

緩歩で脚側行進を示す

プライマリーエレメント: スローペース

実施要領 - セカンダリーエレメント

- 歩く速度をゆるめた際に、ハンドラーと犬は同調して緩歩行進を行う
- ハンドラーは犬の歩度にあわせてはならない
- 犬はハンドラーにぶつかる、前に出る、遅れる、蛇行することなく、ヒールポジションを維持する



154(20) - FAST PACE

速歩の脚側行進を示す

プライマリーエレメント: ファストペース

実施要領 - セカンダリーエレメント

- 歩く速度を速めた際に、ハンドラーと犬は同調して速歩行進を行う
- ハンドラーは犬の歩度にあわせてはならない
- 犬はハンドラーにぶつかる、前に出る、遅れる、蛇行することなく、ヒールポジションを維持する



156(22)- MOVING SIDESTEP RIGHT

脚側行進において注意力を示す

プライマリーエレメント: サイドステップ時のヒールポジション維持

実施要領 - セカンダリーエレメント

- 犬はハンドラーの動きに同調しながら、右斜め前に1歩位置を移動しながら直進する
- 犬はハンドラーの動きに同調しながら、ぶつかる、前に出る、遅れる、蛇行することなくヒールポジションを維持する
- ハンドラーは犬の歩度にあわせることなく、もとの歩行ラインと平行に直進する

補足

- サインの右側でサイドステップを実行させるため、審査員はこのサインをハンドラーの歩行線上に置くことがある。



158(7)- 90°RIGHT TURN

右屈折時の脚側行進

プライマリーエレメント: 右屈折

実施要領 - セカンダリーエレメント

- 犬はハンドラーの動きに同調しながら右屈折する
- ハンドラーは犬の歩度にあわせない
- 犬はハンドラーの動きに同調しながら、ぶつかる、前に出る、遅れる、蛇行することなく、ヒールポジションを維持する

補足

- ハンドラーは明確な90度を示すために、屈折後2〜3歩直進してから次のステーションへ移動しなければならない、明確な角度を示さぬまま、次のステーションへの歩行線上を歩いてはならない



160(8)- 90°LEFT TURN

左屈折時の脚側行進

プライマリーエレメント: 左屈折

実施要領 - セカンダリーエレメント

- 犬はハンドラーの動きに同調しながら左屈折する
- ハンドラーは犬の歩度にあわせない
- 犬はハンドラーの動きに同調しながら、ぶつかる、前に出る、遅れる、蛇行することなく、ヒールポジションを維持する

補足

- ハンドラーは明確な90度を示すために、屈折後2〜3歩直進してから次のステーションへ移動しなければならない、明確な角度を示さぬまま、次のステーションへの歩行線上を歩いてはならない



162(9) - 180°RIGHT TURN

180°右ターン時の脚側行進

プライマリーエレメント: 180°右ターン

実施要領 - セカンダリーエレメント

- 犬はハンドラーの動きに同調しながら右に 180° ターンする
- ハンドラーは犬の歩度にあわせない
- 犬はハンドラーの動きに同調しながら、ぶつかる、前に出る、遅れる、蛇行することなく、ヒールポジションを維持する

補足

- ハンドラーは明確な 180 度を示すために、旋回後 2～3 歩直進してから次のステーションへ移動しなければならない、明確な歩数を示さぬまま、次のステーションへの歩行線上を歩いてはならない
- ハンドラーはその場で、または半径 60cm～90cm 以内で 180°ターンする



164(10) - 180°LEFT TURN

180°左ターン時の脚側行進

プライマリーエレメント: 180°左ターン

実施要領 - セカンダリーエレメント

- 犬はハンドラーの動きに同調しながら左に 180°ターンする
- ハンドラーは犬の歩度にあわせてはならない
- 犬はハンドラーの動きに同調しながら、ぶつかる、前に出る、遅れる、蛇行することなく、ヒールポジションを維持する

補足

- ハンドラーは明確な 180 度を示すために、旋回後 2～3 歩直進してから次のステーションへ移動しなければならない、明確な歩数を示さぬまま、次のステーションへの歩行線上を歩いてはならない
- ハンドラーはその場で、または半径 60cm～90cm 以内で 180° ターンする



166(11) - 270°RIGHT TURN

270°右ターン時の脚側行進

プライマリーエレメント: 270°右ターン

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬は同調しながら、およそ半径 60cm～90cm 範囲内で進行方向が左 90°に変更するように 270°右ターンを行う
- ハンドラーは犬の歩度にあわせてはならない
- 犬はハンドラーの動きに同調しながら、ぶつかる、前に出る、遅れる、蛇行することなく、ヒールポジションを維持する

補足

- ハンドラーは明確な角度を示すために、旋回後 2～3 歩直進してから次のステーションへ移動しなければならない、明確な角度を示さぬまま、次のステーションへの歩行線上を歩いてはならない



168(12)- 270°LEFT TURN

270°左ターン時の脚側行進

プライマリーエレメント: 270° 左ターン



実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬は同調しながら、およそ半径 60cm～90cm 範囲内で進行方向が右 90°に変更するように 270°左ターンを行う
- ハンドラーは犬の歩度にあわせない
- 犬はハンドラーの動きに同調しながら、ぶつかる、前に出る、遅れる、蛇行することなく、ヒールポジションを維持する

補足

- ハンドラーは明確な角度を示すために、旋回後 2～3 歩直進してから次のステーションへ移動しなければならない
明確な角度を示さぬまま、次のステーションへの歩行線上を歩いてはならない

170(13)- 360 度 RIGHT TURN

360°時計周り

プライマリーエレメント: 360°右ターン



実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬は同調しながら、およそ半径 60cm～90cm 範囲内で 360°右ターンを実行する
- ハンドラーは犬の歩度にあわせない
- 犬はハンドラーの動きに同調しながら、ぶつかる、前に出る、遅れる、蛇行することなく、ヒールポジションを維持する

補足

- ハンドラーは旋回後 2～3 歩直進してから次のステーションへ移動しなければならない、明確な歩数を示さぬまま、次のステーションへの歩行線上を歩いてはならない

172(14)- 360°LEFT TURN

360°反時計周り

プライマリーエレメント: 360°左ターン



実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬は同調しながら、およそ半径 60cm～90cm 範囲内で 360°左ターンを実行する
- ハンドラーは犬の歩度にあわせてはならない
- 犬はハンドラーの動きに同調しながら、ぶつかる、前に出る、遅れる、蛇行することなく、ヒールポジションを維持する

補足

- ハンドラーは旋回後 2～3 歩直進してから次のステーションへ移動しなければならない、明確な歩数を示さぬまま、次のステーションへの歩行線上を歩いてはならない

174 (NEW) - VEER 45° RIGHT

右斜め 45°

プライマリーエレメント: 右斜め 45°

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬は同調しながら、サインの手前、もしくはサインを超えた所で右斜め 45°に進行方向を変える
- ハンドラーは犬の歩度にあわせない
- 犬はハンドラーの動きに同調しながら、ぶつかる、前に出る、遅れる、蛇行することなく、ヒールポジションを維持する



176 (NEW) - VEER 45° LEFT

左斜め 45°

プライマリーエレメント: 左斜め 45°

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬は同調しながら、サインの手前、もしくはサインを超えた所で左斜め 45°に進行方向を変える
- ハンドラーは犬の歩度にあわせない
- 犬はハンドラーの動きに同調しながら、ぶつかる、前に出る、遅れる、蛇行することなく、ヒールポジションを維持する



178 (15) - CALL FRONT, FORWARD RIGHT

フロントポジションの理解力を示す

プライマリーエレメント: 正面停座

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーは前進をやめると同時に犬に「Front Sit」の合図を出す
- 犬はハンドラーの体の正面で座る
- ハンドラーは下記のように「Forward Right」を実行する
 - ハンドラーは犬にハンドラーの後ろを廻ってヒールポジションにつくように合図を出す
 - 犬はハンドラーの後ろを廻りヒールポジションにつく
 - 犬がヒールポジションに戻ると同時にハンドラーと犬は前進する
 - 犬はヒールポジションで座らず、止らず、またハンドラーは犬の歩度にあわせることなく前進を始める

補足:

- ハンドラーは犬を Front (正面) に導くため、4 歩まで後退しても良い、しかし義務ではない。
- ハンドラーは自分から犬の体の正面に近づくような動きをしてはならない。



180 (15)- CALL FRONT、FORWARD LEFT

フロントポジションの理解力を示す

プライマリーエレメント: 正面停座

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーは前進をやめると同時に犬に「Front Sit」の合図を出す
- 犬はハンドラーの体の正面で「Sit」する
- ハンドラーは下記のように Forward Left を実行する
 - ハンドラーは犬に左側から直接ヒールポジションにつくように合図を出す
- -犬はハンドラーの左側に直接(その場で時計回り、反時計回りどちらでも良い)ヒールポジションに戻り、ハンドラーと同じ方向を向いて、その場で座ることなく次のステーションへ移動する。
 - 犬がヒールポジションに戻ると同時にハンドラーと犬は前進する
 - 犬はヒールポジションで座らず、止らず、またハンドラーは犬の歩度にあわせることなく前進を始める

補足

- ハンドラーは犬を Front (正面)に導くため、4 歩まで後退しても良い、しかし義務ではない。
- ハンドラーは自分から犬の体の正面に近づくような動きをしてはならない。



182 (NEW)- MINI SPIRAL RIGHT

右周りのバリュエーション

プライマリーエレメント: コーンを右周りで HEELING する

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬は下記の要領でスパイラルを実行する
 - チームはコーンの左側から楕円を描くように 2 つのコーンの外側を回る
 - チームは続いて 2 つのコーンの間を通り、手前のコーンを時計回りに回る
- ハンドラーと犬は同調してスパイラルを実行する
- ハンドラーは犬の歩度にあわせない
- 犬はハンドラーの動きに同調しながら、ぶつかる、前に出る、遅れる、蛇行することなく、ヒールポジションを維持する
- ハンドラーと犬がコーンを挟む形になったり、コーン動かしたり倒してはならない

補足

- このエクササイズは 1.8m-2.4m 間隔で置かれた 2 つのコーンを使用する
- コーンはコースの進行方向に対して平行、斜め、または直角に置いてよい
- チームの動きは右上の図のようになる



184 (NEW) - MINI SPIRAL LEFT

左周りのバリュエーション

プライマリーエレメント: コーンを左周りで HEELING する

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬は下記の要領でスパイラルを実行する
 - チームはコーンの右側から楕円を描くように 2 つのコーンの外側を廻る
 - チームは続いて 2 つのコーンの間を通り、手前のコーンを反時計回りに廻る
- ハンドラーと犬は同調してスパイラルを実行する
- ハンドラーは犬の歩度にあわせない
- 犬はハンドラーの動きに同調しながら、ぶつかる、前に出る、遅れる、蛇行することなく、ヒールポジションを維持する
- ハンドラーと犬がコーンを挟む形になったり、コーン動かしたり倒してはならない



補足

- このエクササイズは 1.8m-2.4m 間隔で置かれた 2 つのコーンを使用する
- コーンはコースの進行方向に対して平行、斜め、または直角に置いてよい
- チームの動きは右上の図のようになる

186 (NEW) - RIGURE 8

障害物周りの HEELING

プライマリーエレメント: 決められたパターンで HEELING する

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬は下記の要領で 8 の字を実行する
 - チームは 1 つ目のコーンの右側を通る
 - チームは 2 つのコーンの間を通る
 - チームは 2 つ目のコーンの周りを時計回りに廻る
 - チームは再び 2 つのコーンの間を通る
- ハンドラーと犬は同調して 8 の字を行う
- ハンドラーは犬の歩度にあわせない
- 犬はハンドラーの動きに同調しながら、ぶつかる、前に出る、遅れる、蛇行することなく、ヒールポジションを維持する
- ハンドラーと犬がコーンを挟む形になったり、コーン動かしたり倒してはならない



補足

- このエクササイズは 1.8m-2.4m 間隔で置かれた 2 つのコーンを使用する
- チームはコーン間を 2 度通過する
- コーンは審査員の裁量で、コースの進行方向に対して平行、斜め、または直角に置かれる。
1 つ目のコーンはコースマップ上でエクササイズが開始される場所として明確に示されなければならない。

188(33)- SERPENTINE

蛇行

プライマリーエレメント: 決められたパターンで HEELING する

実施要領 - セカンダリーエレメント



- ハンドラーと犬は下記の要領で蛇行歩行を実行する
 - チームは1つ目のコーンの右側を通る
 - 続けて1つ目と2つ目の間を右側から、2つ目と3つ目の間を左側から、3つ目と4つ目の間を右側から、5つ目のコーンがある場合は4つ目と5つ目の間左側から通る
- ハンドラーと犬は同調して蛇行する
- ハンドラーは犬の歩度にあわせない
- 犬はハンドラーの動きに同調しながら、ぶつかる、前に出る、遅れる、蛇行することなく、ヒールポジションを維持する
- ハンドラーと犬がコーンを挟む形になったり、コーン動かしたり倒してはならない

補足

- このエクササイズは 1.8m-2.4m 間隔で置かれたコーンを使用する
- コーンは審査員の裁量で、コースの進行方向に対して平行、斜め、または直角に置かれる。
1つ目のコーンはコースマップ上でエクササイズを開始される場所として明確に示されなければならない。

第 6 章- レベル 2 エクササイズ

レベル 2 エクササイズはこの章に記述される。各サインには番号がつけられ、()内の番号は改定前に使用されていたものである。新しく導入された、もしくは訂正されたエクササイズも()で記される。レベル 2 にはこのセクションに記載されるものと、第 5 章のレベル 1 に記載されたエクササイズが使用される。レベル 2 では第 7 章に記載されるレベル 3 のエクササイズがボーナスとして使用される。

この章では各エクササイズに要求される内容が下記のように記載されている

- 目的
- 目的を満たすプライマリーエレメント(主要素)
- 第 4 章の採点に基づき、どのようにパフォーマンスが実行されなければならないかの記載。(セカンダリーエレメント)
- 補足説明

セクション 6.1-ステーションナリーエクササイズ

ステーションナリーエクササイズはステーションナリーポジションで完結する課目である。そのエクササイズの一部に、ムーヴィング要素が含まれる場合もある。

200(38)- HALT、180°RIGHT PIVOT、HALT

その場で動くハンドラーの動きに同調する

プライマリーエレメント: ハンドラーの右 180°回転に同調して「HEEL」する

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬は同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
- 犬はヒールポジションで「Sit」する
- ハンドラーは犬に「Heel」の合図を出し、位置を移動せずにその場で 180°右回転する
- 犬はハンドラーがピボットを開始すると同時に動きださなければならない
- 回転後、ハンドラーと犬は同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
- 犬はヒールポジションで「Sit」する

補足

- ハンドラーが向きを変えた際に犬が同調して動かなかった場合、このエクササイズのプライマリーエレメントは満たされなかったと見なす
- ハンドラーはピボットの動きをしなければならないが(立ち位置は変えることなく体の向きを変える)、犬にはその必要はない



202(24)- HALT、90°LEFT PIVOT、HALT

その場で動くハンドラーの動きに同調する

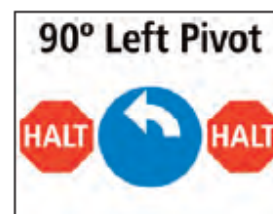
プライマリーエレメント: ハンドラーの左 90°回転に同調しながら「HEEL」する

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬は同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
- 犬はヒールポジションで「Sit」する
- ハンドラーは犬に「Heel」の合図を出し、位置を移動せずにその場で 90°左回転する
- 犬はハンドラーがピボットを開始すると同時に動きださなければならない
- 回転後、ハンドラーと犬は同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
- 犬はヒールポジションで「Sit」する

補足

- ハンドラーが向きを変えた際に犬が同調して動かなかった場合、このエクササイズのプライマリーエレメントは満たされなかったと見なす
- ハンドラーはピボットの動きをしなければならないが(立ち位置は変えることなく体の向きを変える)、犬にはその必要はない



204(47)- HALT、SIDESTEP RIGHT、HALT

ハンドラーのサイドステップ後、ヒールポジションで「Sit」する

プライマリーエレメント：サイドステップ後、ヒールポジションで「SIT」する

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬は同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
- 犬はヒールポジションで「Sit」する
- 犬に「Heel」の合図を出し進行方向を向いたまま右にサイドステップして止まり、犬に「Sit」の合図を出す
- 犬はハンドラーが右にサイドステップすると同時に動き出す
- 犬はヒールポジションで「Sit」する

補足

- ハンドラーはサイドステップする際に、後ろへ下がる動きをしてはならない
- サイドステップの幅は、そのハンドラーの自然な歩幅のおよそ2倍でなければならない(例: 45cm-60cm)
- ハンドラーは正面を向いた状態でサイドステップしなければならないが、犬にはその必要はない。



206A-B(L1B1)- HALT、LEAVE DOG、CALL TO FRONT、SIT

離れた場所での反応

プライマリーエレメント:

- A その場に「STAY」する
- B ヒールポジションに来る

実施要領 - セカンダリーエレメント

A

- ハンドラーと犬は同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
- 犬はヒールポジションで「Sit」する
- ハンドラーは犬に「Stay」の合図を出し、次のサインまで進む
- 犬はハンドラーに呼ばれるまで、その場に「Sit」で待機する

B

- ハンドラーは進行方向を向いたまま止まる
- ハンドラーは身体を進行方向に向けたまま、犬にヒールポジションへくるよう合図を出す
- 犬はヒールポジションに来て「Sit」する

補足

- 2つ目のサインは1つ目サインの直進方向、およそ3m はなれた場所に置く
- ハンドラーは犬を呼ぶ際に、少しだけ頭を振り向かせても良い



208 A-B(32-33)-HALT、LEAVE DOG、VEER RIGHT、TURN、ANGLED RECALL、FINISH

確実な待機と、呼ばれた時の正確なアライメント

プライマリーエレメント:

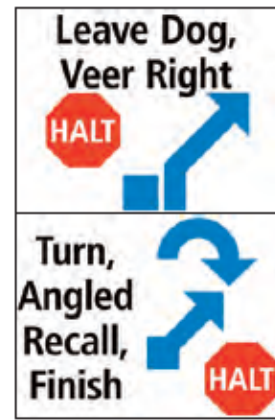
- A その場に「STAY」する
- B 「FRONT」にくる

実施要領 - セカンダリーエレメント

- A
 - ハンドラーと犬は同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
 - 犬はヒールポジションで「Sit」する
 - ハンドラーは犬に「Stay」の合図を出し、およそ 30° 右斜め前に位置する 2 つ目のサインまで進む
 - 犬はハンドラーに呼ばれるまで、その場に「Sit」で待機する
- B
 - ハンドラーは振り向いて止まる、この時犬に顔を向けることなく、犬との平行線上を向く
 - ハンドラーは犬に「Front Sit」の合図を出す
 - 犬はハンドラーのフロントで「Sit」する
 - ハンドラーは「Finish Right」または「Finish Left」の合図を出す (ハンドラーの選択)
 - 犬はハンドラーに指示された方向からヒールポジションへ戻り「Sit」する

補足

- 2 つ目のサインは 1 つ目からおよそ 3m 離れ、1 つ目のサインから 30° の角度が出来るようにさらに右 1.8m の場所に置く



210 A-B(32-33)-HALT、LEAVE DOG、VEER LEFT、TURN、AGNLED、RECALL、FINISH

確実な待機と、呼ばれた時の正確なアライメント

プライマリーエレメント:

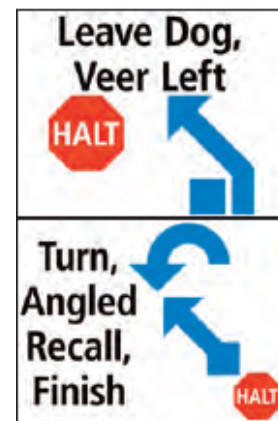
- A その場に「STAY」する
- B 「FRONT」にくる

実施要領 - セカンダリーエレメント

- A
 - ハンドラーと犬は同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
 - 犬はヒールポジションで「Sit」する
 - ハンドラーは犬に「Stay」の合図を出し、30° 右斜め前に位置する 2 つ目のサインまで進む
 - 犬はハンドラーに呼ばれるまで、その場に「Sit」で待機する
- B
 - ハンドラーは振り向いて止まる、この時犬に顔を向けることなく、犬との平行線上を向く
 - ハンドラーは犬に「Front Sit」の合図を出す
 - 犬はハンドラーのフロントで「Sit」する
 - ハンドラーは「Finish Right」または「Finish Left」の合図を出す (ハンドラーの選択)
 - 犬はハンドラーに指示された方向からヒールポジションへ戻り「Sit」する

補足

- 2 つ目のサインは 1 つ目からおよそ 3m 離れ、1 つ目のサインから 30° の角度が出来るようにさらに右 1.8m の場所に置く



212A-B(34-35-36)-HALT、LEAVE DOG、TURN、RECALL、FINISH RIGHT

正確な「STAY」と「FINISH RIGHT」

プライマリーエレメント:

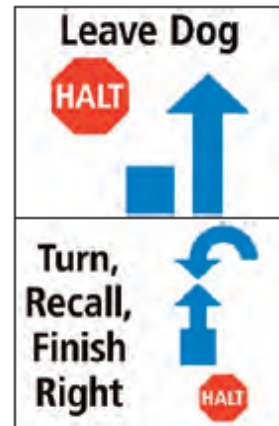
- A その場に「STAY」する
- B FINISH RIGHT する

実施要領 - セカンダリーエレメント

- A
 - ハンドラーと犬は同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
 - 犬はヒールポジションで「Sit」する
 - ハンドラーは犬に「Stay」の合図を出し次のサインまで進む
 - 犬はハンドラーに呼ばれるまで、その場に「Sit」で待機する
- B
 - ハンドラーは振り向いて止まり、犬と対面する
 - ハンドラーは犬に「Front Sit」の合図を出す
 - 犬はハンドラーのフロントで「Sit」する
 - ハンドラーは「Finish Right」の合図を出す
 - 犬はハンドラーの右側から後ろを廻ってヒールポジションへ戻り「Sit」する

補足

- 2つ目のサインは1つ目の延長線上、およそ3m-4.8m はなれた場所に置く



214A-B(34-35-37)-HALT、LEAVE DOG、TURN、RECALL、FINISH LEFT

正確な「STAY」と「FINISH LEFT」

プライマリーエレメント:

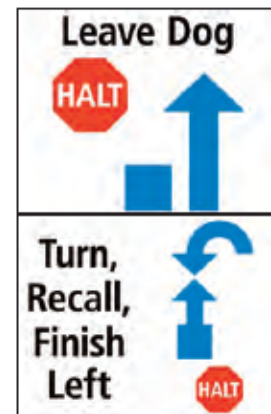
- A その場に「STAY」する
- B FINISH LEFT する

実施要領 - セカンダリーエレメント

- A
 - ハンドラーと犬は同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
 - 犬はヒールポジションで「Sit」する
 - ハンドラーは犬に「Stay」の合図を出し次のサインまで進む
 - 犬はハンドラーに呼ばれるまで、その場に「Sit」で待機する
- B
 - ハンドラーは振り向いて止まり、犬と対面する
 - ハンドラーは犬に「Front Sit」の合図を出す
 - 犬はハンドラーのフロントで「Sit」する
 - ハンドラーは「Finish Left」の合図を出す
 - 犬はハンドラーの左側をまわってヒールポジションについて「Sit」する

補足

- 2つ目のサインは1つ目の延長線上、およそ3m-4.8m はなれた場所に置く



216A-B(55-56 修正)-HALT、LEAVE DOG.TURN、CALL OVER JUMP、FRONT、FINISH

離れた「STAY」からの「JUMP」

プライマリーエレメント:

- A その場に「STAY」する
- B 正しい方向から支柱間を通る

実施要領 - セカンダリーエレメント

A

- チームはハードルの正面で同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
- 犬はヒールポジションで「Sit」する
- ハンドラーは犬に「Stay」の合図を出し、ハードルの横を通り次のサインまで進む
- 犬はハンドラーに呼ばれるまで、その場に「Sit」で待機する

B

- ハンドラーは振り向いて止まり、犬と対面する
- ハンドラーは犬に「Jump」および「Front Sit」の合図を出す
- 犬は支柱を倒したり、バーを落したり、横をすりぬけることなく、正しい方向から支柱間を通る
- 犬はハンドラーのフロントで「Sit」する
- ハンドラーは「Finish Right」または「Finish Left」の合図を出す(ハンドラーの選択)
- 犬はハンドラーに指示された方向からヒールポジションへ戻り「Sit」する

補足

- 1つ目のサインは、犬がハードルの正面に位置するように、およそ 2.4m-3.6m ハードルの手前に置かれる
- 2つ目のサインは、ハードルを越えた犬が、ハンドラーの体の正面に座るに十分な距離として、ハードルからおよそ 3.6m-4.5m 離れた場所に置く



218(L1B2 修正)-CALL FRONT、SIDESTEP-FINISH LEFT OR SIDESTEP-FINISH RIGHT

正確なフロントを示す

プライマリーエレメント: フロントで SIT する(X2)

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーは前進をやめると同時に犬に「Front Sit」の合図を出す
- 犬はハンドラーのフロントで「Sit」する
- ハンドラーは(後退せず)右、もしくは左(ハンドラーの選択)へ一歩サイドステップすると同時に犬に「Front」の合図を出す
- 犬はハンドラーと同時に動き出し、ハンドラーのフロントで「Sit」する
- ハンドラーは犬に移動した向きでの Finish の合図を出す
左にサイドステップした場合は Finish Left でヒールポジションへ戻り「Sit」する
右にサイドステップした場合は Finish Right でヒールポジションへ戻り「Sit」する

補足

- ハンドラーは犬を最初の Front(正面)に導くため 4 歩まで後退しても良い、しかし義務ではない。
- サイドステップの幅は、そのハンドラーの自然な歩幅のおよそ2倍でなければならない(例: 45cm-60cm)
- 犬はサイドステップの動きをする必要はないが、ハンドラーが動くと同時に移動しなければならない



セクション 6.2-ムービングエクササイズ

ムービングエクササイズは、動く要素で完結する。その中には 1 つ、もしくはそれ以上のステーションリー要素を含む場合もあるが、ステーションリーポジションで完結することはない。

250(40)-HALT、FRONT SIT、180°RIGHT TURN、FORWARD

様々な動作と方向変換

プライマリーエレメント: 「SIT」からの 180°右回り

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬は同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
- 犬はヒールポジションで「Sit」する
- ハンドラーは犬に「Heel」の合図を出し、即座に右へ 180°回転する
- 犬はハンドラーの動きに同調しながら、ヒールポジションを維持する



252(41)-HALT、FROM SIT、180°LEFT TURN、FORWARD

様々な動作と方向変換

プライマリーエレメント: 「SIT」からの 180°左回り

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬は同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
- 犬はヒールポジションで「Sit」する
- ハンドラーは犬に「Heel」の合図を出し、即座に左へ 180°回転する
- 犬はハンドラーの動きに同調しながら、ヒールポジションを維持する



254(46)-HALT、FAST FORWARD FROM SIT

「SIT」からの反応性を示す

プライマリーエレメント: 「SIT」からのファストペース

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬は同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
- 犬はヒールポジションで「Sit」する
- ハンドラーは犬に「Heel」の合図を出し、即座にファストペースを開始する
- 犬は「Sit」の姿勢からファストペースへ移行する間も、ハンドラーに同調しながらヒールポジションを維持する
- チームは次のステーションにアプローチする手前で常歩に戻す
- このエクササイズは、5.5m-6m の距離で行われる



256(45)-MOVING DOWN、FORWARD

「DOWN」に対する反応性

プライマリーエレメント: 「Sit」の姿勢で止まることなく「Down」



実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーは歩いている途中にヒールポジションを維持した状態から犬に「Down」の合図を出す、この時ハンドラーはほんの少し止まってもよい。
- 犬はヒールポジションで、「Sit」の姿勢で止まることなく「Down」の姿勢をとる
- 犬が「Down」の姿勢をとったらハンドラーは「Heel」の合図を出し、犬は Down の姿勢から速やかにハンドラーに同調して前進する

補足

- ハンドラーが「Down」の合図を出す際に、ヒールポジションから一旦犬の前に出て「Down」の合図を出すこともできる。そこからヒールポジションへ戻ったら「Down」の姿勢から即座に脚側行進へ移行する。

258(48)-LEFT ABOUT TURN

反転ターン時のヒールポジションの理解力

プライマリーエレメント: ハンドラーが反時計回りにターンする間、犬はその周りを時計回りに進む



実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーはヒーリング中に 180°反時計回りにターンし、犬はそのハンドラーの外側を時計回りに動いてヒールポジションへ戻る
- ハンドラーと犬はヒールポジションを維持したまま次のステーションへ移動する

補足

- ハンドラーはこのとき、その場で回転(ピボット)しても良い

260(NEW)-SEND OVER JUMP、HANDLER RUNS BY 1M

離れた場所のハンドラーと同じ向きでジャンプする

プライマリーエレメント: 1m 離れたハンドラーと同じ向きで走り、正しい方向から支柱間を通る



実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーは犬にジャンプの合図を出し、1m 離れた場所のハンドリングラインに沿って、ハードルの右側をファストペース以上のスピードで走る
- ハンドラーはハードルを通過したらノーマルペースに戻す
- ハンドラーは次のステーションへ向かう
- 犬は支柱を倒したり、バーを落したり、横をすりぬけることなく支柱間を正しい方向から通る
- 犬はハンドラーが次のエクササイズを開始する前にヒールポジションに戻らなければならない

補足

- ハンドリングラインはハードルから 1m 離れた地面に敷いてもよい。ラインはサインで代用することも出来る。ラインは飛越線と平行していること。そしてその長さはハードルの手前から 4.5m、ハードルを越えた場所から 1.5m 以上なければならない。
- 飛越する際に犬がハンドラーより速い場合は、飛越後、減点無しで犬を呼び戻すことができる。

262A-B(55-56 修正)-HALT、LEAVE DOG.TURN、CALL OVER JUMP、FRONT、FORWARD

距離のある「STAY」と距離のある「JUMP」

プライマリーエレメント:

- A 「STAY」する
- B 正しい方向から支柱を通る



実施要領 - セカンダリーエレメント

- A
 - ハンドラーと犬はハードルの正面で同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
 - 犬はヒールポジションで「Sit」する
 - ハンドラーは犬に「Stay」の合図を出し、ハードルの横を通り次のサインまで進む
 - 犬はハンドラーに呼ばれるまで、その場に「Sit」で待機する
- B
 - ハンドラーは振り向いて止まり、犬と対面する
 - ハンドラーは犬に「Jump」および「Front Sit」の合図を出す
 - 犬は支柱を倒したり、バーを落したり、横をすりぬけることなく正しい方向から支柱間を通る
 - 犬はハンドラーのフロントで「Sit」する
 - ハンドラーは犬に「Heel」の合図を出し、犬がヒールポジションに戻ると同時に歩き出す
 - 犬はヒールポジションに戻る際に、ハンドラーのどちら側を廻ってもよい、そしてヒールポジションに着いたらその場で座ることなくハンドラーの動きに同調しながら前進する

補足

- 1つ目のサインは犬が待機する場所として、ジャンプの手前およそ 2.4m-3.6m 手前に置かれる
- 2つ目のサインは、ハードルを越えた犬がハンドラーの体の正面に座ることができる十分な距離として、およそ 3.6m-4.5m ハードルの向こう側に置く

264A-B(NEW)-HALT、LEAVE DOG WHILE RUNNING. RETURN BEHIND、FORWARD

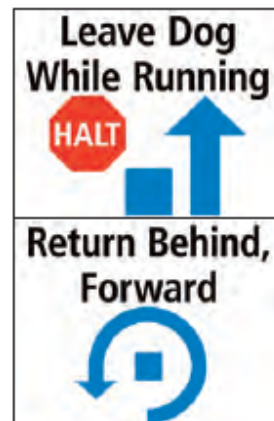
ハンドラーが動いている間の待機からの合流

プライマリーエレメント:

- A 「STAY」
- B ハンドラーと「HEEL」で前進する

実施要領 - セカンダリーエレメント

- A
 - ハンドラーと犬は同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
 - 犬はヒールポジションで「Sit」する
 - ハンドラーは犬に「Stay」の合図を出して次のサインまで走り、サイン手前でノーマルペースに戻して向きを変え、ノーマルペースで犬のところに戻る
 - ハンドラーは犬の後ろをまわってヒールポジションに戻る
 - 犬はハンドラーからヒールの合図が出るまで、その場に「Sit」で待機する
- B
 - ハンドラーは犬のもとへ戻ったら、犬に「Heel」の合図を出して前進する
 - 犬はハンドラーの動きに同調しながら前進する



補足

- 2つ目のサインは1つ目の延長線上、およそ 3m はなれた場所に置く
- ハンドラーがヒールポジションに戻って2歩以上前進しても犬がその場から動かなかった場合、プライマリーエレメントの失敗とみなす

266(49 修正)-MOVING STAND、WALK AROUND

信頼性のある「STAND」

プライマリーエレメント: 「STAND」で「STAY」する

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーはヒーリング中、犬に「Stand」「Stay」の合図を出す
- ハンドラーの手をそえるなどの補助無しで、犬はその場で座る動作をとることなく「Stand」の姿勢をとる
- ハンドラーは犬の周りを反時計回りで一周する、この時犬は姿勢を変えたり、その場から動いてはならない
- ハンドラーは犬のもとへ戻ったら、犬に「Heel」の合図を出して前進する
- 犬はハンドラーの動きに同調しながら前進する

補足

- ハンドラーはいかなる時も、ヒールポジションで止まる動作ををしてはならない



268(25)- SPIRAL RIGHT

右連続ターン

プライマリーエレメント: コーンを右周りの決められたパターンで HEELING する

実施要領 - セカンダリーエレメント

- チームはコーンの左側から楕円を描くように 3 つのコーンの外側を廻る
- チームは続いて手前 2 つのコーンを時計回りに廻る
- チームは続いて手前 1 つのコーンを時計回りに廻る
- ハンドラーと犬がコーンを挟む形になったり、コーンを動かしてはならない

補足

- このエクササイズは 1.8m-2.4m 間隔で置かれた 3 つのコーンを使用する
- コーンの設置は審査員の裁量により、進行方向に対して平行、斜め、または直角に置いてよい。1 つ目のコーンはコースマップ上でエクササイズを開始される場所として明確に示されなければならない。
- チームの動きは右上の図のようになる



270(26)-SPIRAL LEFT

左連続ターン

プライマリーエレメント: コーンを左周りの決められたパターンで HEELING する

実施要領 - セカンダリーエレメント

- チームはコーンの右側から楕円を描くように 3 つのコーンの外側を廻る
- チームは続いて手前 2 つのコーンを反時計回りに廻る
- チームは続いて手前 1 つのコーンを反時計回りに廻る
- ハンドラーと犬がコーンを挟む形になったり、コーンを動かしてはならない

補足

- このエクササイズは 1.8m-2.4m 間隔で置かれた 3 つのコーンを使用する
- コーンの設置は審査員の裁量により、進行方向に対して平行、斜め、または直角に置いてよい。1 つ目のコーンはコースマップ上でエクササイズを開始される場所として明確に示されなければならない。
- チームの動きは右上の図のようになる



272(NEW)-OFFSET FIGURE 8 (NO FOOD)

かるい誘惑のある HEELING

プライマリーエレメント： 食器とコーンの周りを決められたパターンで HEELING する

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬は手前コーンの右側を通る
- チームは 2 つの食器の間を(よける、触る、匂いをかぐ、ハンドラーと犬が食器を挟むことなく)通過する
- チームは続けて 2 つ目のコーンをチームの右側にし、コーンの周りを(よける、注意をそらす、ハンドラーと犬がコーンを挟むことなく)回る
- チームは再び 2 つの食器の間を、(よける、触る、匂いをかぐ、ハンドラーと犬が食器を挟むことなく)Heeling を継続したまま通過し、手前のコーンがチームの左にくるようにこのエクササイズを終了する

補足

- 食器は空のものを使用し蓋はしない。コーン間は 3m 間隔、食器間は 1.5m で、それぞれの対角線上に置く。
- 食器は通常 15cm 程度のものを使用する
- チームはコーン間を 2 度通過する
コーンはコースの進行方向に対して平行、斜め、または直角に置いてよい。1 つ目のコーンはコースマップ上でエクササイズを開始される場所として明確に示されなければならない。



274(29)- DOUBLE SERPENTINE (DOUBLE FIGURE 8)

連続方向変換

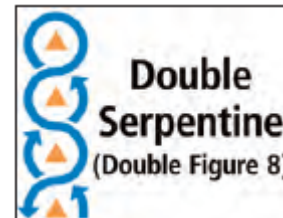
プライマリーエレメント： 決められたパターンで HEELING する

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬は下記の要領で連続蛇行を実行する
 - チームは 1 つ目のコーンの右側を通り、1 つ目と 2 つ目のコーンの間を通る
 - 続けて 2 つ目と 3 つ目の間を左側から、3 つ目と 4 つ目の間を右側から通る
 - チームは 4 つ目のコーンを時計回りに回り、4 つ目と 3 つ目の間を右側から、3 つ目と 2 つ目の間を左側から、2 つ目と 1 つ目の間を右側から通る
- ハンドラーと犬がコーンを挟む形になったり、コーンを動かすことなく Heeling を継続する

補足

- このエクササイズは 1.8-m-2.4m 間隔で置かれた4つのコーンを使用する
- コーンは審査員の裁量で、コースの進行方向に対して平行、斜め、または直角に置かれる。
1 つ目のコーンはコースマップ上でエクササイズを開始される場所として明確に示されなければならない。



第 7 章- レベル 3 エクササイズ Updated 6/15/2023 306AB

レベル 3 エクササイズはこの章に記述される。各サインには番号がつけられ、()内の番号は改定前に使用されていたものである。新しく導入された、もしくは訂正されたエクササイズも()で記される。レベル 3 にはこのセクションに記載されるものと、第 5 章、第 6 章のレベル 1 と 2 に記載されたエクササイズが使用される。レベル 3 のボーナス課目は、この章の最後に記載されるリストから起用される。

この章では各エクササイズに要求される内容が下記のように記載されている

- 目的
- 目的を満たすプライマリーエレメント(主要素)
- 第 4 章の採点に基づき、どのようにパフォーマンスが実行されなければならないかの記載。(セカンダリーエレメント)
- 補足説明

セクション 7.1-ステーションナリーエクササイズ

ステーションナリーエクササイズはステーションナリーポジションで完結する課目である。その課目の一部に、ムービング要素が含まれる場合もある。

300(27)- HALT, 1-2-3 STEPS FORWARD WITH HALTS

ハンドラーの動きに集中する

プライマリーエレメント: 繰り返し「SIT」する

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬は同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
- 犬はヒールポジションで「Sit」する
- 犬が「Sit」したらハンドラーは
 - 1 歩前に出て止まる
 - 2 歩前に出て止まる
 - 3 歩前に出て止まる
- ハンドラーは動く毎に犬に「Sit」の合図を出して良い
- 犬はハンドラーと同時に前進、停止毎にヒールポジションで「Sit」する



補足

- 4 度の停止において 1 度でも座らなかつた場合、このエクササイズのプライマリーエレメントは満たされなかつたと見なす

302(39)- HALT、 180°LEFT PIVOT、HALT

ハンドラーの動きにあわせる

プライマリーエレメント: ハンドラーが左 180°ピボットを開始すると同時に犬はヒーリングを始める

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬は同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
- 犬はヒールポジションで「Sit」する
- ハンドラーは犬に「Heel」の合図を出し、180°左ピボットをする
- 犬はハンドラーがピボットを開始すると同時に動き始め、またその動き(ピボット)に合わせて動かなければならない
- 回転後、ハンドラーと犬は同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
- 犬はヒールポジションで「Sit」する



補足

- ハンドラーがピボットする際に犬が座ったままだった場合、このエクササイズのプライマリーエレメントは満たされなかつたと見なす
- ハンドラーはピボットの動きをしななければならないが、犬はピボットの動きをする必要はない

304 A-B (50-51 REVISED) - MOVING STAND, LEAVE DOG, TURN, CALL TO HEEL, SIT

ハンドラーから離れた状態の「STAY」と、フロントとヒールの識別

プライマリーエレメント

- A その場で「STAY」する
- B ヒールポジションに来る

実施要領 - セカンダリーエレメント

- A
 - ハンドラーはヒーリング中、犬に「Stand」および「Stay」の合図をだす、この時ハンドラーはほんの少し止まる動きをしてもよい
 - ハンドラーが手をそえるなどの補助無しで、犬はその場で座ることなく「Stand」の姿勢をとる
 - ハンドラーは犬から離れて2つ目のサインまで進む
 - 犬はハンドラーに呼ばれるまで、その場に「Stand」で待機する
- B
 - ハンドラーは振り向いて止まり、犬と対面する
 - ハンドラーはすぐに犬に「Heel」の合図を出す（右側、左側のどちらからでも良い）
 - 犬はヒールポジションについて「Sit」し、ハンドラーと同じ方向を向く

補足

- 2つ目のサインは1つ目サインの直進方向、およそ2.4m-3mはなれた場所に置く
- ハンドラーはこのエクササイズ中に犬に触れてはならない
- このエクササイズは犬がフロントポジションに来ることなく、直接ヒールポジションにつける
- 犬はハンドラーの左側に直接つく、またはハンドラーの後ろを周ってもよい



306 A-B (52-53) - MOVING STAND, LEAVE DOG, TURN, DOWN, SIT, FRONT, FINISH

遠隔操作と姿勢の理解度

プライマリーエレメント

- A 「STAND」の姿勢でその場に「STAY」する
- B 離れた場所の「SIT」と「DOWN」

実施要領 - セカンダリーエレメント

- A
 - ハンドラーはヒーリング中、犬に「Stand」および「Stay」の合図をだす、この時ハンドラーはほんの少し止まる動きをしてもよい
 - ハンドラーが手をそえるなどの補助無しで、犬はその場で座ることなく「Stand」の姿勢をとる
 - ハンドラーは犬から離れて2つ目のサインまで進む
 - 犬はハンドラーから「Down」の合図が出されるまで、その場に「Stand」で待機する
- B
 - ハンドラーは振り向いて止まり、犬と対面する
 - ハンドラーは次の順番で犬に合図を出す
 - 「Down」
 - 「Sit」
 - フロントに来て「Sit」する
 - 「Finish Left」もしくは「Finish Right」の合図を出す
 - 犬はその場の「Down」、その場の「Sit」、「Front Sit」およびハンドラーの合図とおりの「Finish」をする

補足

- 2つ目のサインは1つ目サインの直進方向、およそ2.4m-3mはなれた場所に置く
- ハンドラーは犬に触れてはならない



308 A-B (L2 B1) - MOVINGDOWN、 LEAVE DOG.TURN、 FRONT、 FINISH

離れた「DOWN」「STAY」からの「RECALL」

プライマリーエレメント:

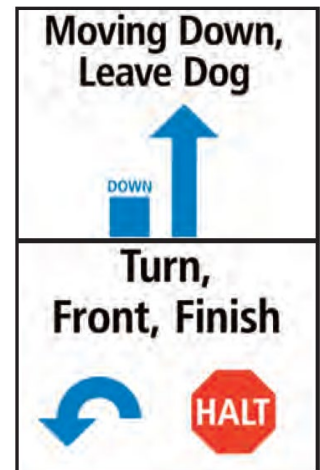
- A 「DOWN」の姿勢でその場に「STAY」する
- B フロントに来る

実施要領 - セカンダリーエレメント

- A
 - ハンドラーはヒーリング中、犬に「Down」の合図をだす、この時ハンドラーはほんの少し止まる動きをしてもよい
 - 犬は「Sit」の姿勢で止まることなく「Down」姿勢をとる
 - ハンドラーは犬から離れて 2 つ目のサインまで進む
 - 犬はハンドラーに呼ばれるまで、その場に「Down」で待機する
- B
 - ハンドラーは振り向いて止まり、犬と対面する
 - ハンドラーは犬に「Front」および「Sit」の合図を出す
 - 犬はハンドラーのフロントで「Sit」する
 - ハンドラーは「Finish Right」または「Finish Left」の合図を出す (ハンドラーの選択)
 - 犬はハンドラーに指示された方向からヒールポジションへ戻り「Sit」する

補足

- 2 つ目のサインは 1 つ目サインの直進方向、およそ 4.5m-6m はなれた場所に置く



310 A-B (NEW) - HALT、 LEAVE DOG. BLIND FRONT、 FINISH LEFT

距離のある「STAY」と「RECALL」に対する聴覚反応

プライマリーエレメント:

- A その場で「STAY」する
- B 見えないフロントに来る

実施要領 - セカンダリーエレメント

- A
 - ハンドラーと犬は同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
 - 犬はヒールポジションで「Sit」する
 - ハンドラーは犬に「Stay」の合図を出し 2 つ目のサインまで進む
 - 犬はハンドラーに呼ばれるまで、その場に「Sit」で待機する
- B
 - ハンドラーは進行方向を向いたまま止まる
 - ハンドラーは振り向くことなく、犬にフロントで「Sit」する合図を出す。犬がフロントにくるまで、ハンドラーの体は進行方向を向いたままにする
 - 犬はハンドラーのフロントに来て「Sit」する
 - ハンドラーは「Finish Left」の合図を出す
 - 犬はハンドラーの左側をまわってヒールポジションについて「Sit」する

補足

- 2 つ目のサインは 1 つ目サインの直進方向、およそ 3m-4.8m はなれた場所に置く
- ハンドラーは犬を呼ぶ際に、少しでも頭を振り向かせても良い



312 A-B(57-58) - HALT, LEAVE DOG.TURN、DIRECTED JUMP、 FRONT、 FINISH

離れた場所で「STAY」をし、「STAY」した場所からジャンプする

プライマリーエレメント:

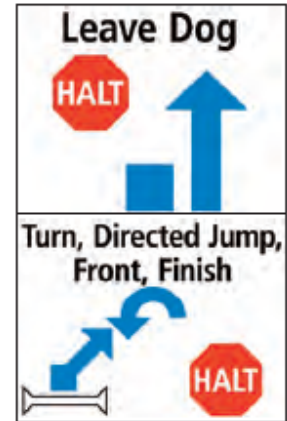
- A その場で「STAY」する
- B ハンドラーが 1.8m 離れた所からの指示で正しい方向から支柱を通る

実施要領 - セカンダリーエレメント

- A
 - ハンドラーと犬は同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
 - 犬はヒールポジションで「Sit」する
 - ハンドラーは犬に「Stay」の合図を出し、ハードルの横を通り、2 つ目のサインまで進む
 - 犬はハンドラーに呼ばれるまで、その場に「Sit」で待機する
- B
 - ハンドラーは振り向いて止まり、犬と対面する
 - ハンドラーは両足をその場から動かさず、犬に「Jump」および「Front Sit」の合図を出す
 - 犬は支柱を倒したり、バーを落したり、横をすりぬけることなく正しい方向から支柱間を通る
 - 犬はハンドラーのフロントで「Sit」する
 - ハンドラーは「Finish Right」または「Finish Left」の合図を出す（ハンドラーの選択）
 - 犬はハンドラーに指示された方向からヒールポジションへ戻り「Sit」する

補足

- 1 つ目のサインはハードルの手前およそ 3.6m-4.5m、そこから 1.8m 横にズラした場所に置く
- 2 つ目のサインはハードルの向こう側およそ 3.m-4.5m、1 つ目のサインの延長線上に置く
- 「Jump」の合図を出す際に、ハンドラーが片方の足をハードル側に踏み出しその場にとどめなかった場合、記述通りに実行されなかったとして部分的な減点の対象となるが、両足をその場から動かした場合、このエクササイズのパライマリーエレメントは満たされなかったと見なす
- 犬がハンドラーの正面に入れるように、犬のジャンプと同時にハンドラーは体を少し犬の方に向けても良い。但し犬に近づいてはならない。



セクション 7.2-ムービングエクササイズ

ムービングエクササイズは、動く要素で完結する。その中には 1 つ、もしくはそれ以上のステーションリー要素を含む場合もあるが、ステーションリーポジションで完結することはない。

350 (NEW) -DOUBLE LEFT ABOUT TURN

左反転ターン時のヒールポジションの理解力

プライマリーエレメント: ハンドラーが反時計回りに回転すると、犬は時計回りにハンドラーの周りを逆方向に通過する(x2)



実施要領 - セカンダリーエレメント

- ヒーリング中
- - ハンドラーはヒーリング中に 180°反時計回りにターンし、犬はそのハンドラーの外側を時計回りに動いてヒールポジションへ戻る
- - ハンドラーと犬は同調しながら 2-4 歩前進し、上記のように左反転ターンを繰り返す
- ハンドラーと犬はヒールポジションを維持したまま、もとの方向へと前進する

補足

- ハンドラーはこのとき、その場で回転(ピボット)しても良い

352 (54) -REVERSE HEEL 3 STEP、 FORWARD

ヒーリング中のヒールポジションコントロール

プライマリーエレメント: ヒールポジションを維持したまま 3 歩下がる



実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーはヒーリング中ほんの少し動きを止め、体を進行方向に向けたまま、最低 3 歩(およそ 1.5m-1.8m)後退し、再び前進を始める
- 犬は向きを変えたり、「Sit」、あるいは「Down」することなく、ヒールポジションを維持しなければならない

補足

- ハンドラーは後退を始めるとき、「Stand」の合図を使用しても良い、また前進を始めるとき、「Heel」の合図を使用することも出来る
- 後退と前進の切り替え時は、完全に停止したり、急速な変化であってはならない
- 後退はノーマルペースでスムーズに実行されなければならない、規定歩数を超えても減点の対象にはならない
- ヒーリングの失敗(減点)は両方向(後退と前進)に適用される

354(42 REVISED)- FRONT、1-2-3 STEP BACKWARD、FORWARD

繰り返すハンドラーの動きにあわせてフロントで「Sit」

プライマリーエレメント： フロントで繰り返し「Sit」する

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーは(後退することなく)停止すると同時に犬に「Front Sit」の合図を出す
- 犬はヒールポジションで座ることなくフロントへ来て「Sit」する
- 犬が正面で座ったら、ハンドラーは
 - 1 歩下がって止まる
 - 2 歩下がって止まる
 - 3 歩下がって止まる
- ハンドラーは後ろに下がるたびに、犬に「Front」の合図を出しても良い
- 犬はハンドラーと同調して動き、止まるたびにフロントで「Sit」する
- 3 回目の「Front Sit」後、ハンドラーは犬に「Heel」の合図を出し、犬がヒールポジションに戻ると同時に前進する
- 犬はハンドラーの左側から直接、またはハンドラーの右側から後ろを廻ってヒールポジションつくと同時にハンドラーの動きと同調して前進する



補足

- ハンドラーが最初の「Front」の合図を出す際に、後ろに下がる動きをした場合は減点となる
- 4 度の停止において 1 度でも座らなかつた場合、このエクササイズのパライマリーエレメントは満たされなかつたと見なす

356(L3 B2 REVISED)- CALL FRONT、DOG BACK UP 3 STEPS、RETURN、FORWARD

バックの技術

プライマリーエレメント： 座ることなく 3 歩下がる

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーは前進を止めると同時に犬に「Front Sit」の合図を出す
- 犬はヒールポジションで「Sit」することなく、ハンドラーのフロントで「Sit」する
- 犬がフロントで「Sit」したら、ハンドラーは犬に「Stand」および「Back」の合図を出す
- ハンドラーが犬に近づくと、犬はハンドラーと対面したまま直線的にバックする
- ハンドラーは直接犬の右側につくか、もしくは「Stand」姿勢の犬の後ろを周ってヒールポジションに移動する
- ハンドラーはヒールポジションに移動すると同時に、犬に「Heel」の合図を出し前進する
- 犬はハンドラーの動きと同調して前進する



補足

- ハンドラーは犬をフロントに導くため 4 歩まで後退しても良い、しかし義務ではない。
- ハンドラーは犬に向かって足を踏み込む動作で「Back」の合図を出してはならない、この場合は追加のキューとなる。
- ハンドラーは犬のもとへ戻る前に、犬に「Stay」の合図を出してもよい

358(63 revised) - FRONT、180°R/L PIVOT、FORWARD

シンクロした動き

プライマリーエレメント: ハンドラーピボットに同調して移動開始

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーは停止すると同時に犬に「Front Sit」の合図を出す
- 犬はヒールポジションで座ることなく、ハンドラーのフロントで「Sit」する
- 犬が「Sit」したらハンドラーはその場で右、もしくは左に 180° 回転し、犬はハンドラーの動きと同じタイミングでヒールポジションに移動する
- 犬がヒールポジションに移動したら、ハンドラーは即座に前進する

補足

- ハンドラーがフロントの合図を出す際に、犬がフロントに移動する前に後ろに下がる動きをした場合は減点となる
- ハンドラーはその場で、または半径 60cm～90cm 以内で 180° ターンする



360 (58) - RIGHT TURN, 1-2 STEP, DOWN, FORWARD

屈折後の「DOWN」への反応

プライマリーエレメント: 屈折後の「DOWN」

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬は右に 90°曲がり、1～2 歩前進した所でハンドラーは犬に「Down」の合図を出す、この時ハンドラーはほんの少し止まる動きをしてもよい
- 犬は「Sit」の姿勢で止まることなく「Down」の姿勢をとる
- 犬が「Down」の姿勢になると同時に、ハンドラーと犬は同調して「Down」の姿勢から前進する



362(0) - LEFT TURN, 1-2 STEP, DOWN, FORWARD

右屈折後の「DOWN」への反応

プライマリーエレメント: 屈折後の「DOWN」

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬は左に 90°曲がり、1～2 歩前進した所でハンドラーは犬に「Down」の合図を出す、この時ハンドラーはほんの少し止まる動きをしてもよい
- 犬は「Sit」の姿勢で止まることなく「Down」の姿勢をとる
- 犬が「Down」の姿勢になると同時に、ハンドラーと犬は同調して「Down」の姿勢から前進する



364 (L3 B3 REVISED) – HALT, STAND WITH DISTRACTION, RETURN BEHIND, FORWARD

「STAY」に対する自信と確実性

プライマリーエレメント: その場の「STAY」

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬は同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
- 犬はヒールポジションで「Sit」する
- ハンドラーは犬に「Stand」の合図を出す
- 犬は手をそえられるなどの補助無しで、その場で「Stand」の姿勢をとる
- ハンドラーは犬に「Stay」の合図を出し、およそ 1.8m 前進して振り向いて止まり、犬と対面する
- 審査員は犬とハンドラーの間を通過して犬に近づき、犬の周りを歩き、観察しながらハンドラー側へ移動する
- 審査員がハンドラーの横で止まったら、ハンドラーは犬の元へ戻り、「Stand」の姿勢の犬の後ろを通過してヒールポジションに戻る。
- ハンドラーはヒールポジションに戻ると同時に犬に「Heel」の合図を出し前進する
- 犬はハンドラーの動きに同調して歩く



補足

- ハンドラーは犬に触れてはならない
- 審査員は時計回り、反時計回り、犬のどちら側を周っても良いが、手が届く範囲内まで近づいてはならない

366 A-B (50-51 REVISED) - MOVING STAND, LEAVE DOG, TURN, CALL TO HEEL FORWARD

ハンドラーから離れた状態の「STAY」と、フロントとヒールの識別

プライマリーエレメント:

A その場で「STAY」する

B ヒールポジションへ戻る

実施要領 - セカンダリーエレメント

A

- ハンドラーはヒーリング中、犬に「Stand」および「Stay」の合図を出す、この時ハンドラーはほんの少し止まる動きをしてもよい
- 犬は手をそえられるなどの補助無しで、その場で「Stand」の姿勢をとる
- ハンドラーは犬に「Stay」の合図を出し、2つ目のサインまで進む
- 犬はハンドラーに呼ばれるまで、その場に「Stand」で待機する

B

- ハンドラーは振り向いて止まり、犬と対面する
- ハンドラーは即座に犬に「Heel」の合図を出す (犬はハンドラーの左側に直接、または右側から後ろを周る、どちらでも良い)
- 犬はヒールポジションに戻る
- 犬がヒールポジションに戻ると同時にハンドラーは「Heel」の合図を出す
- 犬は座ることなくハンドラーに同調して前進する



補足

- 2つ目のサインは1つ目サインの直進方向、およそ 2.4m-3m はなれた場所に置く
- ハンドラーは犬に触れてはならない
- ヒールポジションに戻るといふことは、フロントポジションに来ることなく直接ヒールポジションにつかなければならないという意味
- 犬はハンドラーの左側に直接、またはハンドラーの後ろを周ってヒールポジションに戻る (どちらでも良い)

368 A-B (61-62 REVISED) -HALT、LEAVE DOG.TURN、DOWN ON RECALL、FRONT、RETURN、FORWARD

ハンドラーから離れた状態の「STAY」と、磨きあげられた「DOWN」の理解力

プライマリーエレメント:

A その場で「STAY」する

B RECALL 中の離れた状態での「DOWN」

実施要領 - セカンダリーエレメント

A

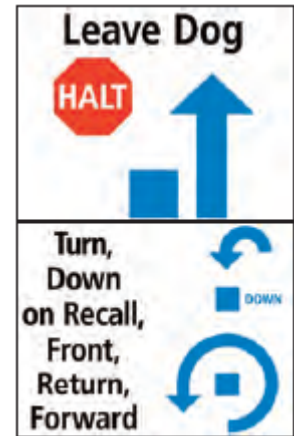
- ハンドラーと犬は同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
- 犬はヒールポジションで「Sit」する
- ハンドラーは犬に「Stay」の合図を出し、2つ目のサインまで進む
- 犬はハンドラーに呼ばれるまで、その場に「Sit」で待機する

B

- ハンドラーは振り向いて犬と対面する
- ハンドラーは犬にフロントの合図をだす
- 犬は活力をもってハンドラーへと駆け寄り、ハンドラーは2つ目のサインまでの半分の位置に犬がさしかかったら「DOWN」の合図を出す
- 犬は「Sit」の姿勢で止まることなく即座に「Down」の姿勢をとる。この時ハンドラーまでの距離は残りの呼び寄せに備え、1.8m以下であってはならない
- ハンドラーは犬に「Front」に来て「Sit」するように合図を出す
- 犬はハンドラーのフロントで「Sit」する
- ハンドラーは犬の右側に直接、もしくは犬の後ろを周ってヒールポジションに戻る。この時犬は「Sit」の姿勢を維持しなければならない。
- ハンドラーは犬の横に戻ったら、「Heel」の合図を出し前進する
- 犬はハンドラーに同調して前進する

補足

- 2つ目のサインは1つ目のサインの7.5m-9m延長線上におく
- もし犬が「DOWN」のときに1.8m以上ハンドラーに近づいたら、プライマリーエレメントの失敗とみなす
- ハンドラーは犬の横へ戻る前に、犬に「STAY」の合図を出しても良い



370 A-B (L2 B3 REVISED) HALT、LEAVE DOG.TURN、DOWN,RETIEN BEHIND、FORWARD

離れた場所での「SIT-STAY」および離れた場所での「DOWN」

プライマリーエレメント:

A 「SIT」の姿勢でその場に「STAY」する

B ハンドラーから離れた状態で「SIT」からの「DOWN」をする

実施要領 - セカンダリーエレメント

A

- ハンドラーと犬は同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
- 犬はヒールポジションで「Sit」する
- ハンドラーは犬に「Stay」の合図を出し、2つ目のサインまで進む
- 犬はハンドラーから「Down」の合図が出されるまで、その場に「Sit」で待機する

B

- ハンドラーは振り向いて止まり、犬と対面する
- ハンドラーは即座に犬に「Down」の合図を出す
- 犬が「Down」したらハンドラーは犬の後ろを周ってヒールポジションに戻る。この時犬は「Down」の姿勢を維持しなければならない。
- ハンドラーは犬の横に戻ったら、「Heel」の合図を出し前進する
- 犬はハンドラーに同調して「Down」の姿勢からヒールで前進する

補足

- 2つ目のサインは1つ目サインの直進方向、およそ3m-4.5mはなれた場所に置く



372 A-B (NEW)—HALT, LEAVE DOG. TURN, CALL OVER 2 JUMPS, FRONT, FORWARD

離れて「STAY」した状態からの「JUMP」シーケンス

プライマリーエレメント:

- A その場で「STAY」する
- B 支柱間を正しい方向から通過する(2つ)

実施要領 - セカンダリーエレメント

A

- チームはハードルの正面で同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
- 犬はヒールポジションで「Sit」する
- ハンドラーは犬に「Stay」の合図を出し、2つのハードルの横を通り次のサインまで進む
- 犬はハンドラーに呼ばれるまで、その場に「Sit」で待機する

B

- ハンドラーは振り向いて止まり、犬と対面する
- ハンドラーは犬に「Jump」および「Front Sit」の合図を出す
- 犬は支柱を倒したり、バーを落したり、横をすりぬけることなく、正しい方向から2つのハードルの支柱間を通る
- 犬はハンドラーのフロントで「Sit」する
- ハンドラーは犬に「Heel」の合図を出し、犬がヒールポジションに戻ると同時に歩き出す
- 犬はヒールポジションに戻る際に、ハンドラーのどちら側を廻ってもよい、そしてヒールポジションに着いたらその場で座ることなくハンドラーの動きに同調しながら前進する

補足:

- 1つ目のサインは1つ目のハードルから2.4m手前に、犬の体がハードルの中心を通れるように設置する。
- 2つ目のハードルは1つ目からおよそ3.6m--4.5m離れた場所に、1つ目のハードルの直線状に設置。
- 2つ目のサインは2つ目のハードルからおよそ3m-3.6m離れた場所に、2つのハードルの延長線上で犬の体がハンドラーの体の正面に入れるように設置。



374 (43)—SEND OVER JUMP, HANDLER RUNS BY 6' (1.8M)

移動中のハンドラーと離れてジャンプする

プライマリーエレメント: 1.8m離れた場所からのハンドリング(指示)で支柱間を正しい方向から通過する

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーは犬に「Jump」の合図を出し、ハードルの右横から1.8m離れたハンドリングラインに沿って走る(最低「Fast ペース」の速さ)
- ハンドラーはハードルを過ぎたらノーマルペースに戻す
- ハンドラーは次のエクササイズへ進む
- 犬は支柱を倒したり、バーを落したり、横をすり抜けることなく、正しい方向から2つのハードルの支柱間を通る
- 犬はハンドラーが次のエクササイズを始めるまでに、ヒールポジションに戻る

補足

- ハンドリングラインは、ハンドラーがハードルから1.8m以上の間隔をあけてエクササイズを実行しているかを明確に示す為に地面に書いてもよい。ラインはエクササイズサインで代用することも出来る。この時、ラインはハードルに対して平行であり、その長さはハードルの手前から4.5m以上、ハードルの向こう側1.5m以上でなければならない。
- 犬がハンドラーよりも速くハードルの向こう側に到達した場合、ハンドラーは犬を呼び戻してもよい。



376 (31)—OFFSET FIGURE 8 (WITH FOOD)

気をそらす物の中で集中して歩く習慣

プライマリーエレメント:コーンと食器周りを決められたパターンで HEELING する



実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬は手前コーンの右側を通る
- チームは 2 つの食器の間を(よける、触る、匂いをかぐ、ハンドラーと犬が食器を挟むことなく)通過する
- チームは続けて 2 つ目のコーンをチームの右側にし、コーンの周りを(よける、注意をそらす、ハンドラーと犬がコーンを挟むことなく)回る
- チームは再び 2 つの食器の間を、(よける、触る、匂いをかぐ、ハンドラーと犬が食器を挟むことなく)Heeling を継続したまま通過し、手前のコーンがチームの左にくるようにこのエクササイズを終了する

補足

- カバーされた 1/4 カップのドライフード入りの食器を使用。コーン間は 3m 間隔、食器間は 1.5m 間隔で、それぞれの対角線上に置く。
- 食器は通常 15cm 程度のものを使用する
- チームはコーン間を 2 度通過する
コーンはコースの進行方向に対して平行、斜め、または直角に置いてよい。1 つ目のコーンはコースマップ上でエクササイズを開始される場所として明確に示されなければならない。

セクション 7.3-レベル 3 ボーナスイクササイズ

レベル 3 のボーナスエクササイズはこの章に記述される。これらのエクササイズは以前のエクササイズとの組合せにより難易度を増しています。これらはレベル 3 およびベテランクラスで使用される。

セクション 7.3.1-ステーションアリーエクササイズ

ステーションアリーエクササイズはステーションアリーポジションで完結する課目である。その課目の一部に、ムービング要素が含まれる場合もある。

400 (NEW)—FRONT, FINISH R/L TO RIGHT SIDE

右サイドフィニッシュの理解度を示す

プライマリーエレメント: 右サイドにフィニッシュ

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーは停止すると同時に、その場で後ろにさがることなく犬に「Front」「Sit」の合図を出す
- 犬はハンドラーのフロントへ移動して「Sit」する
- ハンドラーは犬に、いずれかの方向から右サイドでフィニッシュする合図を出す
- 犬はハンドラーと同じ方向に顔を向けて、右サイドのヒールポジションにつく
- ハンドラーと犬は右サイドヒールポジションを維持したまま次のステーションへ向かう



補足

- 犬が右サイドのヒールポジションへ着くまでの間、ハンドラーは両足を揃えたまま動かしてはならない
- 犬は右サイドにつく際に、直接右側に、もしくはハンドラーの後方を回ってもよい
- このエクササイズは、コース上最後の課目でない限り、「Leave Dog」または「Call Front」で、犬が左ヒールポジションで終える課目に続かなければならない

402 (L3 B1 REVISED)— HALT, RETRIEVE, FRONT, FINISH

持ってくる

プライマリーエレメント: フロントポジションへ物品を持ってくる

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬は持来物品の正面で同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
- 犬はヒールポジションで「Sit」する
- ハンドラーは持来物品をレトリブされるために犬を送り出し、犬は物品を取りに行く
- 犬はハンドラーの正面で物品を落とすことなく「Sit」する
- ハンドラーは犬に受け渡しの合図を出し、物品を取り上げる
- ハンドラーは犬に「Finish Left」もしくは「Finish Right」の合図を出す（ハンドラーの選択）
- 犬はハンドラーの合図通りの動きでヒールポジションに戻って「Sit」する



以前あった“犬は持来物品に向かい拾い上げ、落とすことなくハンドラーのもとへ戻る”が上記 3 行目と 4 行目に集約されました。表現が変わっただけで、規定そのもの変更はありません。

補足

- コースパフォーマンスを開始する前に、審査員あるいはリングスチュワートはハンドラーから持来物品を受取り、レトリブエクササイズの為に、犬の歩行線上およそ 4.5m の位置にセットしておく
- 持来物品は歩行線上の外にある次のステーションサインに置いてよい、あるいはマットの上やコーンなど、ハンドラーの視野に入りやすい状態にする
エクササイズを完了したら、ハンドラーは持来物品を審査員に手渡すか、エクササイズサインのところに置くことを推奨する。持来物品はルアーとして使うことはできない

セクション 7.3.2 -ムービングエクササイズ

ムービングエクササイズは、動く要素で完結する。その中には 1 つ、もしくはそれ以上のステーションナリー要素を含む場合もあるが、ステーションナリーポジションで完結することはない。

450 (NEW)—SWITCH SIDE 180° PIVOT

両サイドヒーリングの熟練度

プライマリーエレメント: 犬はその場でハンドラーと同じ方向に回ってサイドスイッチ

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーはその場でピボットし、犬もその場で 180°ハンドラーと同じ向きでターンをし進行方向を変える
- ハンドラーがピボットをしている間、犬はハンドラーと平行の位置を維持しなければならない
- 犬は右脚側につき、ハンドラーに同調してヒールを継続する



補足

- ハンドラーのピボットと犬のターンは右回りでも左回りでも良い
- このエクササイズは、コース上最後の課目でない限り、「Leave Dog」または「Call Front」で、犬が左ヒールポジションで終える課目に続かなければならない

452 (NEW)—SWITCH SIDE 180° RIGHT TURN

両サイドヒーリングの熟練度

プライマリーエレメント: 犬はハンドラーの右回りに合わせてサイドスイッチする

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬は平行にその場で 180°、およそ半径 30cm-60cm の範囲で右回りをして進行方向を変える
- 犬はハンドラーと同じ向きに回り、右脚側につく
- 犬は右脚側につき、ハンドラーに同調してヒールを継続する



補足

- ハンドラーはピボットではなく、右回りをしなければならない
- ハンドラーの左から右にスイッチするために、犬はハンドラーの後ろを回る
- このエクササイズは、コース上最後の課目でない限り、「Leave Dog」または「Call Front」で、犬が左ヒールポジションで終える課目に続かなければならない

454 (NEW)—SWITCH SIDE 180° LEFT TURN

両サイドヒーリングの熟練度

プライマリーエレメント: 犬はハンドラーの左回りに合わせてサイドスイッチする

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーと犬は平行にその場で 180°、およそ半径 30cm-60cm の範囲で左回りをして進行方向を変える
- 犬はハンドラーと同じ向きに回り、右脚側につく
- 犬は右脚側につき、ハンドラーに同調してヒールを継続する



補足

- ハンドラーはピボットではなく、左回りをしなければならない
- ハンドラーの左から右にスイッチするために、犬はハンドラーの前を回る
- このエクササイズは、コース上最後の課目でない限り、「Leave Dog」または「Call Front」で、犬が左ヒールポジションで終える課目に続かなければならない

456 A-B (NEW)—HALT, LEAVE DOG. RIGHT TURN, CALL TO HEEL

離れた「STAY」から、歩きながらの呼び寄せ

プライマリーエレメント:

A その場で「STAY」

B ヒールポジションに来る

実施要領 - セカンダリーエレメント

A

- ハンドラーと犬は同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
- 犬はヒールポジションで「Sit」する
- ハンドラーは犬を「Stay」の合図を出し、2つ目のサインまで進む
- 犬はハンドラーに呼ばれるまで、その場に「Sit」で待機する

B

- ハンドラーは立ち止まることなく右に90度曲がり、1-2歩進んだ所で犬に「Heel」の合図を出し、犬がヒールポジションについたら次のステーションへ進む
- 犬はハンドラーの左側に直接入る
- 犬がヒールポジションについたらチームは立ち止まることなく前に進む
- 犬がヒールポジションに到達しない場合、ハンドラーは次のステーションのおよそ1.8m手前で立ち止まらなければならない

補足

- 2つ目のサインは、1つ目のサインの2.4m-3m延長線上におく
- ハンドラーは犬を呼ぶ際に犬を見ても良い



458 A-B (NEW)—HALT, LEAVE DOG. LEFT TURN, CALL TO HEEL

離れた「STAY」から、歩きながらの呼び寄せ

プライマリーエレメント:

A その場で「STAY」

B ヒールポジションに来る

実施要領 - セカンダリーエレメント

A

- ハンドラーと犬は同時に止まり、ハンドラーは犬に「Sit」の合図を出す
- 犬はヒールポジションで「Sit」する
- ハンドラーは犬を「Stay」の合図を出し、2つ目のサインまで進む
- 犬はハンドラーに呼ばれるまで、その場に「Sit」で待機する

B

- ハンドラーは立ち止まることなく左に90度曲がり、1-2歩進んだ所で犬に「Heel」の合図を出し、犬がヒールポジションについたら次のステーションへ進む
- 犬はハンドラーの左側に直接入る
- 犬がヒールポジションについたらチームは立ち止まることなく前に進む
- 犬がヒールポジションに到達しない場合、ハンドラーは次のステーションのおよそ1.8m手前で立ち止まらなければならない

補足

- 2つ目のサインは、1つ目のサインの2.4m-3m延長線上におく
- ハンドラーは犬を呼ぶ際に犬を見ても良い



460 (NEW)—MOVING DOWN, 2-4 STEPS, MOVING STAND

「DOWN」と「STAND」の区別



プライマリーエレメント：ヒーリング中「Sit」の姿勢で止まることなく「DOWN」の姿勢をとる、

ヒーリング中「Sit」や「Down」の姿勢で止まることなく「STAND」の姿勢をとる

実施要領 - セカンダリーエレメント

- ハンドラーはヒーリング中、犬に「Down」の合図を出す、この時ハンドラーはほんの少し止まる動きをしてもよい
 - 犬は「Sit」の姿勢で止まることなく「Down」の姿勢をとる
 - ハンドラーは犬が「Down」の姿勢をとったら「Heel」の合図を出す
 - ハンドラーと犬は直接「Down」の姿勢から 2-3 歩同調しながら前に進む
- ハンドラーはヒーリング中に、犬に「Stand」の合図を出す、この時ハンドラーはほんの少し止まる動きをしてもよい
 - 犬はハンドラーが手を添えるなどの補助なしに、「Sit」や「Down」の姿勢で止まることなく「Stand」の姿勢をとる
- ハンドラーと犬は同調して前進する

補足

- ハンドラーは犬が「Down」や「Stand」の姿勢を取ると同時に前進する
- エクササイズ実行中、ハンドラーは犬に触れてはならない